



〒651-0072 神戸市中央区脇浜町3-6-9

広報部

TEL.078-265-3004 FAX.078-265-3113

CSR推進室

TEL.078-265-3149 FAX.078-265-3114

<http://www.srigroup.co.jp/>



住友ゴム工業株式会社

2015.6 © 247

住友ゴムグループ

住友ゴムグループ CSR 報告書 2015

CSR Report 2015

CSR報告書 2015

for you, for the earth

あなたのために、地球のために。

住友ゴム工業株式会社
SUMITOMO RUBBER INDUSTRIES, LTD.

Contents

住友ゴムグループは
タイヤ、スポーツ、産業品の分野における
真に価値ある企業として
社会への貢献を果たしていきます。

持続可能な社会の実現に向けて、私たちにできること。

それは、地球環境への配慮と安全・安心を両立する

高品質な商品の提供と日々の事業活動を通じて

世界の人々にとって快適で魅力ある新しい生活価値を創出すること。

人と地球にとって真に価値ある存在であり続けることこそが

私たち住友ゴムグループの目指すCSR経営です。

〈住友ゴムグループ〉



- 03 住友ゴムグループの事業 03
理念とビジョン 05

- 07 特集 **Go for NEXT**
飽くなき技術革新 07
環境に配慮した商品の開発で
次世代モータリゼーションに貢献

新市場への挑戦 11

現地の課題に応えながら
新市場を開拓し持続的な成長へ

新分野の創出 15

先進技術をベースにした
高機能医療用ゴムのグローバル展開

- 17 トップコミットメント
経済・社会の両面で価値を提供し、
持続可能な社会の発展に貢献する

- 19 CSR活動報告
CSR活動ハイライト2014 19

Green 緑化 21

Ecology 事業活動の環境負荷低減 23

Next 次世代型技術・製品の開発 27

Kindness 人にやさしい諸施策 29

Integrity ステークホルダーへの誠実さ 33

ステークホルダー・ダイアログ 37

サイトレポート 41

CSR推進とマテリアリティ特定の歩み 43

2014年度の目標と実績 45

第三者検証報告書/第三者意見 47

社外からの評価・認証の取得/編集方針 49

世界中の人と社会をGENKIにする

事業セグメント

タイヤ事業

住友ゴム工業が中心となり、「ダンロップ」「ファルケン」をメインブランドとする乗用車用、トラック・バス用、モーターサイクル用など各種のタイヤを先進の環境技術を駆使して国内外に提供しています。

生産工場

白河、名古屋、泉大津、宮崎、中国、インドネシア、タイ、ブラジル、南アフリカ、トルコ（2015年7月）

製造会社

連結子会社 12 関係会社 6

販売会社

連結子会社 30 関係会社 5

タイヤテストコース

岡山、名寄、旭川

研究施設

タイヤテクニカルセンター



スポーツ事業

ダンロップスポーツが中心となり、ゴルフクラブやボール、テニスラケットやボールなどを製造・販売しています。ゴルフでは「SRIXON（スリクソン）」、「XXIO（ゼクシオ）」、「Cleveland Golf（クリーブランドゴルフ）」、テニスでは「SRIXON（スリクソン）」、「DUNLOP（ダンロップ）」などのブランドで国内外に提供しています。2014年には、フィットネスを中心とするウェルネス事業を開始しました。

生産工場

市島、宮崎、インドネシア、タイ、米国

製造会社

連結子会社 4 関係会社 1

販売会社

連結子会社 9 関連会社 2

研究施設

ゴルフ科学センター
北米開発センター（米国）



産業品・その他事業

住友ゴム工業のハイブリッド事業本部が中心となり、OA機器用精密ゴム部品、制振ダンパー、スポーツ用人工芝、塗り床、車いす用可搬式スロープ、ゴム手袋、ガス管、オフセットプランケット、防舷材、止水ゴム、医療用ゴム栓などを製造・販売しています。海外では、マレーシアで天然ゴム手袋の、中国、ベトナムでOA機器用精密ゴム部品の工場が稼働しています。生活用品から産業用資材まで多種多様な商品を提供しています。

生産工場

加古川、泉大津、マレーシア、中国、ベトナム

製造会社

連結子会社 3 関係会社 1

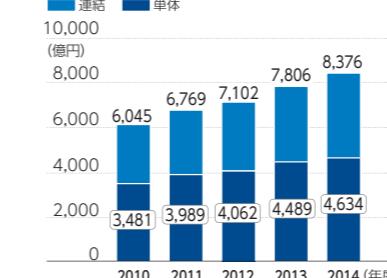
販売会社

連結子会社 4

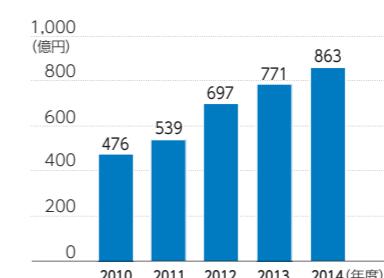


主要財務指標

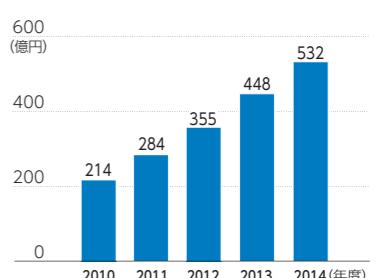
売上高



営業利益(連結)



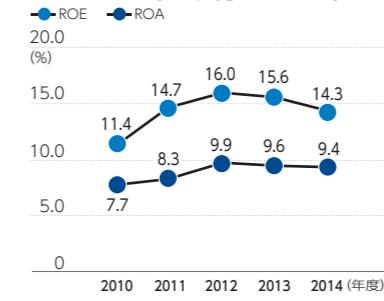
当期純利益(連結)



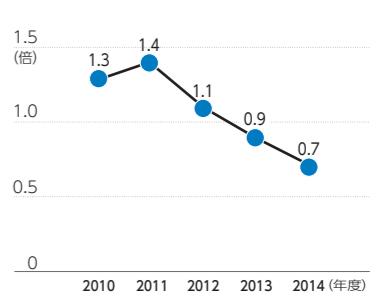
総資産・自己資本(連結)



ROE・ROA(営業利益ベース)



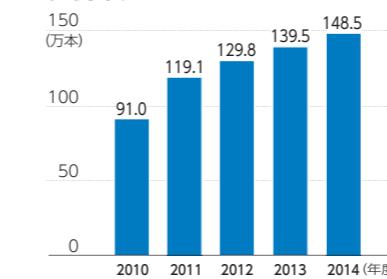
D/Eレシオ



CSR関連指標

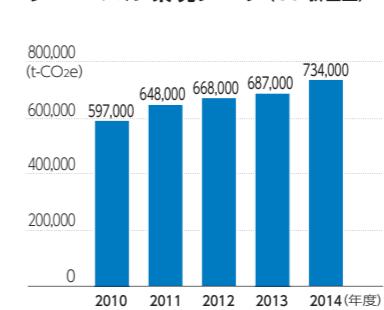
Green 緑化

100万本郷土の森プロジェクト 植樹本数



Ecology 事業活動の環境負荷低減

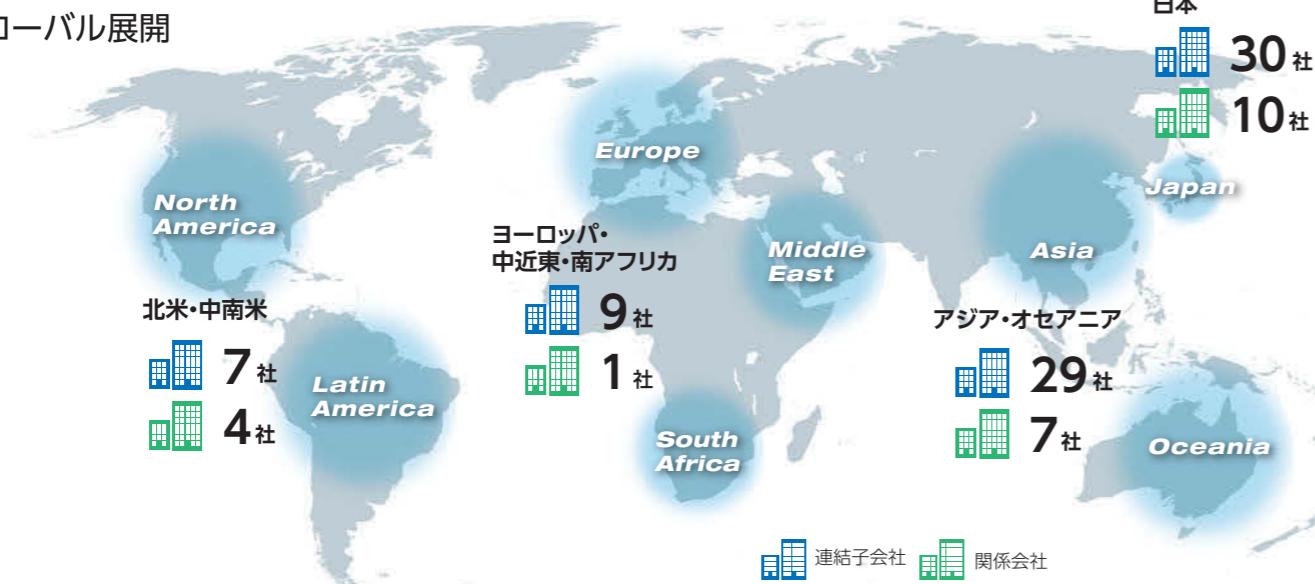
グローバル環境データ (CO₂排出量)



Next 次世代型技術・製品の開発



グローバル展開



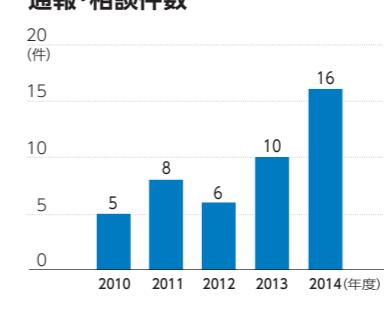
Kindness 人にやさしい諸施策

育児休業制度利用者数

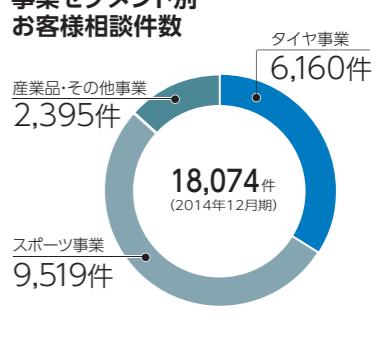


Integrity ステークホルダーへの誠実さ

コンプライアンス相談室への通報・相談件数



事業セグメント別 お客様相談件数



グループ概要 (2014年12月末現在)

- 社名／住友ゴム工業株式会社
- 本社所在地／〒651-0072 神戸市中央区脇浜町3-6-9
- 創業／1909年
- 資本金／427億円
- 連結売上高／8,376億円（2014年12月期）
- 連結従業員数／30,224名
- グループ連結子会社数／75社（うち国内30社）
- グループ関係会社数22社（うち国内10社）

持続可能な社会の実現に向けて

「住友事業精神」には、「住友の事業は住友自身を利するとともに、国家を利し、社会を利用する事業でなければならぬ」という強い使命感が込められています。住友ゴムグループは、「住友事業精神」を全うすることこそがCSR(企業の社会的責任)であると考え、世界一の価値を提供し続けることで、持続可能な社会の実現を目指します。

VISION 2020

企業理念

私たち住友ゴムグループは、企業の社会的使命を果たすために、グループ全社員の幸せを追求し、広く地域・社会に貢献し期待され信頼されるグローバルな企業として、快適で魅力ある新しい生活価値を創出し続けます。

- 現地現物主義に立って、お客様の期待に応え、よりよい製品を責任を持って提供します。
- 堅実な経営基盤をもとに時代の変化に柔軟に適応し、新しい時代を切り開きます。
- 独自技術および研究開発を充実させ新たなニーズを積極的に開拓します。
- 地球環境に責任を持った企業活動と環境に優しい技術開発を進めます。
- 「魅力ある職場環境」と「ゆとりある生活」を創出します。

価値観

信用と確実
● お客様第一
● 現地現物
● 科学的アプローチ
● 繙続的改善

縦と横のつながり
● 人に关心を持ち、お互いを知り合う
● 対話によるコミュニケーション
● 部門を超えた報連相

目標を高く
● 常に問題意識を持つ
● ベンチマークする

人を育てる
● 仕事を通じて指導する
● チームで仕事の成果をあげる

行動原則

経済的価値の追求

2020年 財務目標※

売上高	12,000 億円
営業利益	1,500 億円
営業利益率	12% 以上
ROE	15% 以上
ROA	14% 以上
D/Eレシオ	0.5 以下

※ 為替レート 1ドル=80円、1ユーロ=100円

住友ゴムWAY

「信用と確実」
「縦と横のつながり」
「目標を高く」
「人を育てる」

住友事業精神

信用確実 人間尊重
技術重視 社会への貢献

長期ビジョン
行動イメージ

長期ビジョン

世界一の価値をさまざまな事業領域で
提供し続ける企業集団を目指す

長期ビジョン行動イメージ

Go for NEXT

高収益・高成長の真のグローバルプレイヤーになる
ステークホルダーにとっての価値向上と、
全社員の幸せを追求する

目標達成のための
成長エンジン・新たな挑戦

- 新市場への挑戦
- 飽くなき技術革新
- 新分野の創出

世界一の現場力・開発力・技術力

業界No.1の収益力

CSRガイドライン

Green initiative Ecology process Next-generation product development

Kindness to employees Integrity Integrity for stakeholders

CSR活動基本理念

住友ゴムグループは、
地球環境や社会をGENKIにする活動を通じて、
持続可能な社会の実現に貢献し、
社会から信頼される企業グループを目指します。

飽くなき技術革新

環境に配慮した商品の開発で 次世代モータリゼーションに貢献

住友ゴム工業は、環境問題への取り組みを経営の最重要課題と位置づけ、「エナジーセーブ（低燃費性）」と「ネイチャーセーブ（原材料・省資源）」をコンセプトとする低燃費タイヤブランド「エナセーブ」シリーズの開発を積極的に推進してきました。転がり抵抗の低減による低燃費性や耐久性の向上、さらには世界初の100%石油外天然資源タイヤを開発するなどその進化はとどまることがなく、持続可能な次世代モータリゼーション社会の実現に貢献しています。

低燃費タイヤ※割合(市販夏用タイヤ)

90%以上

※ 低燃費タイヤ：一般社団法人 日本自動車タイヤ協会(JATMA)が定めた、転がり抵抗性能とウェットグリップ性能の基準を満たすタイヤ。



分子構造イメージ

独自のシミュレーション技術を駆使して、高い低燃費性を実現した「エナセーブ NEXT」

エナセーブ史上No.1の低燃費性・ウェット性能を実現 タイヤの転がり抵抗を2008年度比で半減

2014年9月に発売した「エナセーブ NEXT」は2008年当時のタイヤに比べて転がり抵抗を50%低減しています。これを実現するためには、原材料をゼロから見直すことが必要不可欠でした。開発チームは、タイヤを構成する約20の部材のうち、転がり抵抗低減への寄与率が高いものから重点的に検討を開始。なかでも寄与率が40~50%とずば抜けて高いトレッドゴムでは、地面との摩擦による不要な発熱を極力抑え、なつかつ濡れた路面でもしっかりとグリップする新

材料を求めて、さまざまな配合や性能を見極める評価実験を繰り返しました。

2011年にナノレベルで分子の挙動を解析できる独自の新材料開発技術「4D NANO DESIGN」を確立したことでの開発スピードは一気に加速。高純度天然ゴム「UPNR (Ultra Pure Natural Rubber)」、「新シリカ用変性ポリマー」をはじめとする先進技術を採用することで、転がり抵抗を飛躍的に低減するとともに、背反するウェット性能の向上を両立。エナセーブ史上No.1の低燃費性、ウェット性を誇る「エナセーブ NEXT」は、タイヤラベリング制度の最高グレード「AAA-a」を達成しています。

エナセーブ
NEXT

転がり抵抗

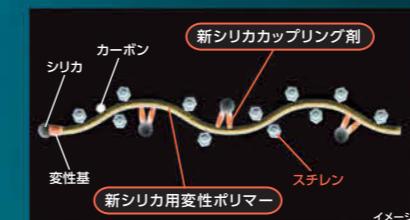
50%低減

注 2008年当時におけるダンロップの市販用夏用タイヤ売上上位4商品を自社基準で算定し、その平均値をタイヤの表示に関する公正競争規約に定められた試験方法に換算した結果、50%低減。（「エナセーブ PREMIUM」と比べ10%低減）
詳細なデータについては、タイヤ公正取引協議会に届け出ています。

タイヤラベリング制度

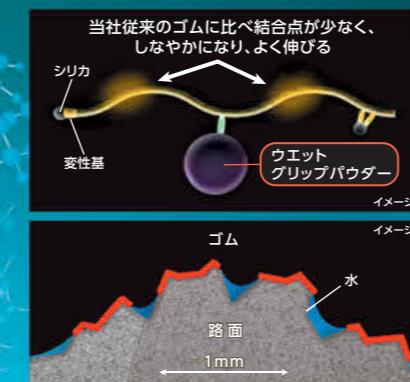
AAA-a

新開発技術 「新シリカ用変性ポリマー」「新シリカカップリング剤」 ポリマーの不要な発熱を抑制し、低燃費性能を向上



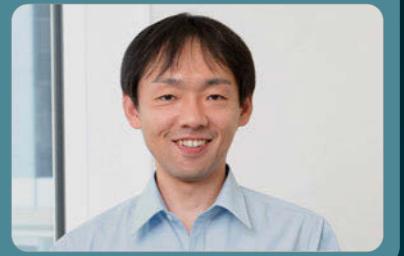
- 従来のポリマーより長い「新シリカ用変性ポリマー」を採用。単位体積あたりの末端部を減らし、従来凝集して熱を発していたスチレンを分散することで発熱を抑制。
- 「新シリカカップリング剤」はポリマーとシリカを強力に結合させ発熱を抑制。

新開発技術 「ウェットグリップパウダー」 接地面積を増大させ、ウェット性能を向上



- 「ウェットグリップパウダー」はシリカの数十倍の粒子径を持つ補強材。シリカと併用することで、従来のゴムに比べて自由度が向上し、大きなひずみがかかるときのポリマーの柔軟性を向上。
- 路面に数多く存在するミクロの凹凸のすきまに、ウェットグリップパウダーを配合したゴムが入り込み、接地面積が増大、ウェットグリップ性能が向上。

従業員の声



高機能材料開発の
スピードアップを目指して

住友ゴム工業(株) 材料開発本部
材料第三部 課長代理

内藤 正登

「エナセーブ NEXT」の開発には独自技術「4D NANO DESIGN」が重要な役割を果たしました。さらなる高機能材料開発に向けて、2015年には日本が世界に誇るSPring-8(大型放射光施設)、J-PARC(大強度陽子加速器施設)、スーパーコンピュータ「京(いけい)」を駆使し、より複雑な現象を解析できる「ADVANCED 4D NANO DESIGN」へと進化させ、新たな技術・材料・製品を創出していきます。

飽くなき技術革新

次世代新工法「NEO-T01」を駆使した プレミアムランフラットタイヤの開発

「超高精度」を追求した次世代新工法「NEO-T01」

安全性や燃費向上へのニーズを受け、ランフラットタイヤを採用する動きが加速しています。ランフラットタイヤは走行中、完全なパンク状態になっても、速度80km/hで距離80kmを走行できることが要件とされ、安全性の向上とスペアタイヤ不要化による省資源・軽量化を実現できます。一方で、パンク状態で一定距離を走れるようにするにはサイド剛性を高める必要があり、「乗り心地の悪さ」を指摘されてきました。

「乗り心地」を高めるためには、高精度なタイヤづくりが求められます。住友ゴム工業では、2008年に超高精度を実現する新たな工法を開発するプロジェクトを

メタルコア工法

優れた「快適性能」

従来工法では成形時にタイヤを膨張させるため、円の均一性に誤差が生じていました。メタルコア工法では、実際の仕上がりサイズの成形フォーマーを用いることで、真円に限りなく近いタイヤを生産することが可能になり、走行時の振動を大幅に抑制することができます。



高速ユニフォーミティ(均一性)

70%低減

全自動連結コントロール

優れた「快適・環境性能」

「全自動連結コントロール」では、ストリップ部材の生成・加工からメタルコアの貼り付けまで、100分の1ミリ単位の正確さで自動制御。それぞれの部材で最適な重量を割り付けることが可能になり、大幅な軽量化を実現。タイヤの超高精度化にも貢献します。



軽量化

10%実現

走行時の形状変化
50%抑制

従業員の声



「NEO-T01」は従来とは
全く異なる製造方法です

住友ゴム工業(株) 製造技術部 主査

森 光司

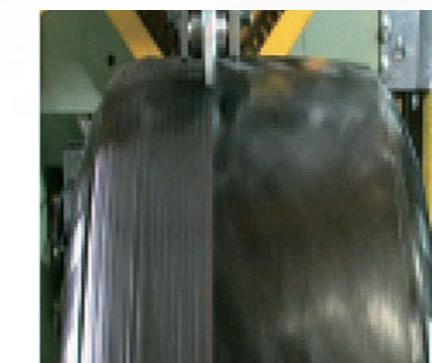
「NEO-T01」は超高精度をコンセプトに開発した、従来とは全く異なるタイヤ製造方法です。

超高精度の要となるのは、立体曲面形状のメタルコアが、貼り合わされる材料に合わせて回転・旋回する同調制御技術です。世界最高水準の真円性によって滑らかな乗心地が体験でき、当社のモノづくり技術を世に向う製品が完成しました。これからも超高精度を活かした製品の開発を進めていきます。

高剛性構造

優れた「快適・安全性能」

成形時の膨張させる工程がなく、設計通りのサイズ・形状のメタルコアで成形から加硫までの工程を終えるため、これまで使えなかった強靭な素材を補強部材に採用できます。この「高剛性構造」によって、高速走行時の形状変化を大幅に抑えることに成功しています。



走行時の形状変化

50%抑制



乗り心地を高め、省資源に貢献する プレミアムランフラットタイヤを発売

超高精度を追求した「NEO-01」により
製造された国内第一弾商品が、2014年
11月に発売されたプレミアムランフラット
タイヤ「SP SPORT MAXX 050 NEO」です。

真円性を大幅に向上させた「NEO-T01」
工法を採用することで、タイヤが滑らかに
転がり、振動を大幅に低減。さらに「全自動
連結コントロール」によりサイド部の厚さを
薄くすることができ、剛性を最適化したこ
とで路面からの衝撃を低減し、上質な乗
り心地を実現しました。

また、特に欧州の自動車メーカーがラン
フラットタイヤの標準装着を始めたのを

機に、欧州ではスペアレスタイヤ市場が急
拡大を続けています。国内に先駆けて
2014年7月には、ファルケンブランドから
「AZENIS FK453 RUNFLAT」を欧州で
発売。欧州市場で求められる高速走行時
の安定性・安全性を高い次元でクリアし、
現地で開催されたジャーナリスト向けの
試乗会では、操縦安定性や乗り心地の良
さで高い評価を得ました。

今後、ランフラットタイヤの普及を目指
して、さらにサイズレンジを広げ、ライン
アップの拡充を図っていく予定です。

**【NEO-T01】によるタイヤ生産本数
1.7万本/年**

**ランフラットタイヤ販売本数
9.8万本**

1970年～ → 1995年～ → 2000年～ → 2003年～ → 2009年～ → 2014年～

ダンロップは世界初
のランフラットタイヤ
を実用化。

【第1世代】 ノーマルタイヤと互
換性のあるDSSTを
実用化。

【第2世代】 第1世代より重量で
10%低減、乗り心地
の指標であるタイヤ
の縦ばね定数も15%
低減。

【第3世代】 第2世代より重量で
3.5%、縦ばね定数で
7%低減。

【第4世代】 「熱のコントロール
技術」により、ノーマ
ルタイヤと同等以上の
乗り心地を実現。



1970年
DENOVU



1995年
DSST
(Dunlop Self-Supporting
Technology)



2000年
CTT
(Combined
Technology Tire)



2009年
第4世代
ランフラットタイヤ

次世代新工法「NEO-T01」を駆使し、上質
な乗り心地を実現したプレミアムランフ
ラットタイヤを発売。



日本で
SP
MAXX
050 NEO

欧州で
AZENIS
FK453

現地の課題に応えながら 新市場を開拓し持続的な成長へ

世界のタイヤの需要は、年平均4%の割合で増加しており、
なかでも、中国を含む新興国では今後の需要拡大が期待されています。
住友ゴムグループは、長期ビジョン「VISION 2020」の達成に向けた中期計画の
成長戦略の一つとして「新市場への挑戦」を掲げ、「新興国市場への進出」、
「中国市場での成長」、「農機用タイヤのアジア展開」に取り組んでいます。
2013年度にはブラジル工場と南アフリカ工場、2014年度には
タイ・農機用タイヤ工場が生産を開始しており、現地の課題やニーズに
お応えしながら、持続可能な成長を目指しています。



農業機械用タイヤの検査工程



タイ・農業機械用タイヤ工場全景



in Thailand



コンバイン用
クローラの検査工程

世界有数のコメ輸出国タイで農業の近代化に貢献

グループ初の農業機械用タイヤ工場を新設

世界のコメ生産量の90%以上はアジアが占め、なかでもタイは世界第1位のコメ輸出国です。これまで日本で農業機械用タイヤなどを提供してきた当グループは、Sumitomo Rubber (Thailand) Co., Ltd. の第3工場として、グループでは海外初となる農業機械用タイヤ工場をタイに建設し、2014年4月に生産を開始。アジア地域の農業発展への貢献を目指しています。

タイ農業機械用タイヤ工場の概要

会社名 Sumitomo Rubber (Thailand) Co., Ltd.
所在地 タイ国ラヨーン県アマタシティ工業団地
事業内容 農業機械用タイヤ、ゴムクローラ、
フォークリフト用ソリッドタイヤの製造・販売
生産開始 2014年4月

製造現場での女性従業員比率 **65%**

タイを中心とした東南アジアは高温で、農地の整備が遅れているため、農業機械のタイヤに高い負荷がかかります。従来、コンバインなどに使用されるゴムクローラはスチールコードをつなぎ合わせるオーバーラップ構造を採用していました。しかし、つなぎ目にダメージが集中してしまうため、新工場では、スチールコードをスパイラル状に巻く新工法「スパイラル工法」を

タイ新工場の生産能力



採用し、優れた耐久性と低振動性を実現した高機能ゴムクローラを生産しています。

また、新工場では、製造現場の女性従業員の割合が約7割に上ります。工場の建設当初から、作業者が重量物を持ち上げずに対応するなどの工夫を凝らしています。管理職の1/3も女性が占めており、女性従業員が安全で快適に働く職場づくりに努めています。

従業員の声



安全、品質、生産のすべてに
No.1の工場を目指して

Sumitomo Rubber (Thailand) Co., Ltd.
第3工場製造部 課長
Krid Charoenvon

工場で働く従業員の皆さん、毎日幸せに働くことができるよう、作業環境の改善に絶え間なく取り組んでいます。

当工場で生産している農業機械用タイヤなどは、いずれもが重量物ですので、従業員からの声を放置せず、問題の解決方法をいち早く探し出すよう努めています。

また、一人ひとりが笑顔で明るく働けることを重視して、安全、品質、生産のそれぞれにおいてNo.1の工場になることを目指しています。



事務所内でのミーティング



製品と従業員

特集
Go for NEXT

Kindness
Kindness to employees

Integrity
Integrity for stakeholders

新市場への挑戦



特集
Go for NEXT
Kindness Integrity

新市場への挑戦

今後の成長が見込める新興市場に高品質なタイヤを供給

南アフリカ工場で持続可能な成長戦略を実践

世界の総人口の14%を占めるアフリカ地域では、2013年12月に南アフリカ共和国のApollo Tyres South Africa社を買収し、当グループの南アフリカ工場として稼働を開始しました。この買収によって、当グループはアフリカ全土でのダンロップブランドの使用権を確保することができ、アフリカでさらなる事業拡大を目指しています。

南アフリカでは、1994年に人種隔離政策が撤廃され、Broad Based Black Economic Empowerment (BBBEE) 法によって雇用の機会均等が法制化されています。南アフリカ工場でも BBBEE 法を遵守するとともに、地元サプライヤーから優先的に調達する

ほか、これまで不利な立場にあった人々のビジネスを支援する「ダンロップ・コンテナ・プログラム」を持続可能な成長戦略の一環として実施。タイヤ知識の研修や設備の提供などによって、小規模なタイヤ販売事業主をサポートしています。

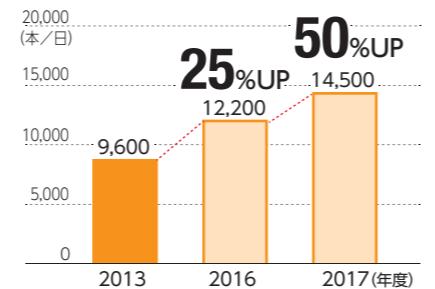
2014年度は、当グループの一員として、全従業員に住友の事業精神や住友ゴム WAY の浸透に向けた研修を実施しました。工場では、Ubumbano (ズールー語で“統一”的意味) 事業モデルに取り組み、従業員とコミュニケーションしながら、住友ゴム WAY を実現することで、品質、安全、労働環境、生産効率の向上を図っています。

in South Africa

南アフリカ工場の概要

会社名 Sumitomo Rubber South Africa (Pty) Limited
所在地 南アフリカ共和国クワズール・ナタール州
設立 2013年12月
事業内容 乗用車、ライトトラック用タイヤの製造・販売、トラック・バス用タイヤの販売
従業員数 約1,100名

南アフリカ工場の生産能力



従業員の声



住友ゴムWAYを浸透させ 価値創造につなげていきたい

Sumitomo Rubber South Africa (Pty) Limited.
Group Manager Organization Development

Neil Rademan

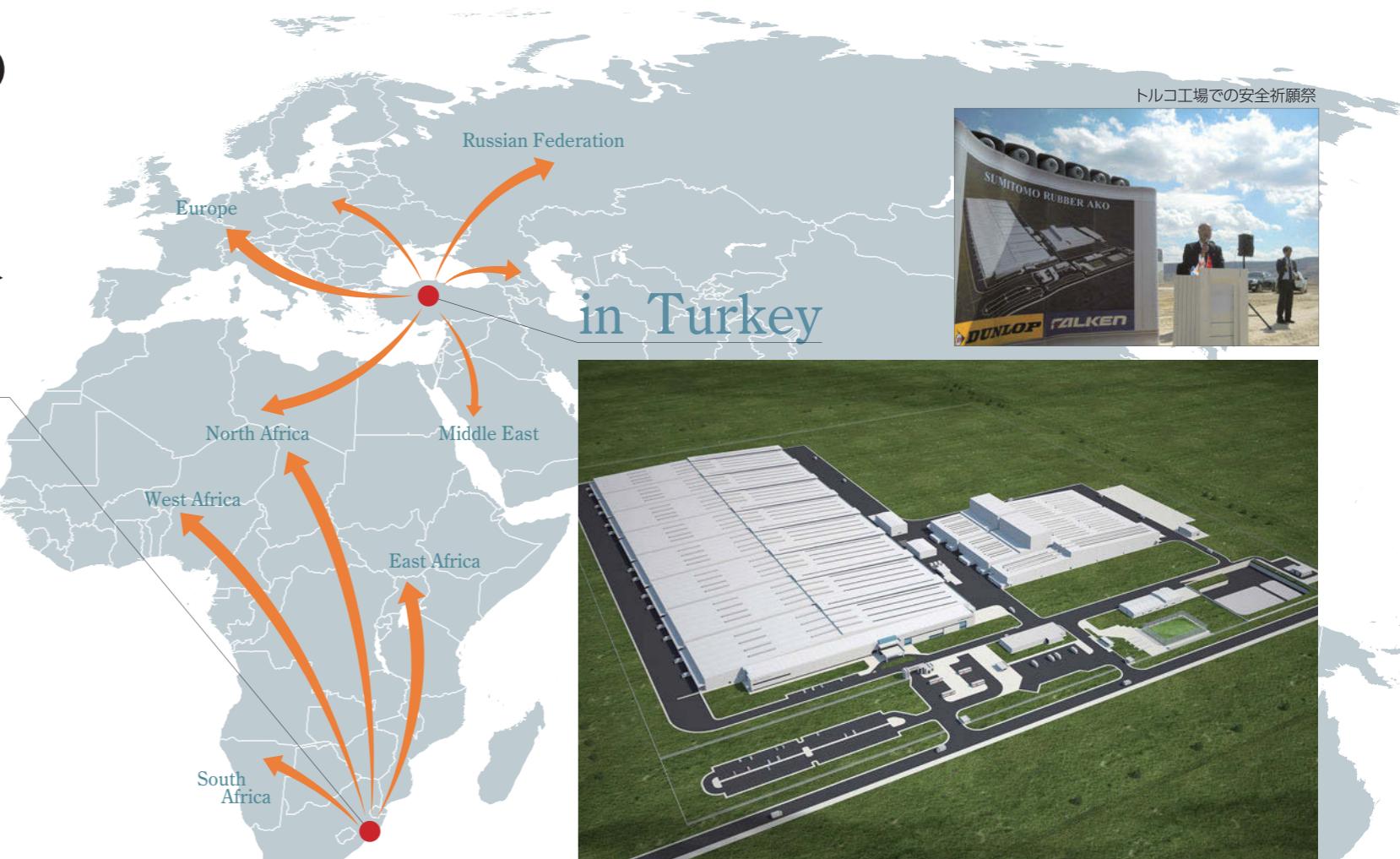
私は、「住友ゴムWAY」の教育を担当します。このグループの精神を深く学んでもらい、そこに価値を見出してもらうことが、私の役割です。

そこで、「住友ゴムWAY」を行動規範研修に組み入れました。「住友ゴムWAY」が行動規範とどのように関わり、どのような行動に結び付くかが理解できます。これはとても影響力があり、「住友ゴムWAY」と私たちに期待される行動について、本当の意味を認識することができるからです。



タイヤ生産ライン

Ubumbano Garden (施設への寄与のための菜園づくり)



トルコ工場での安全祈願祭



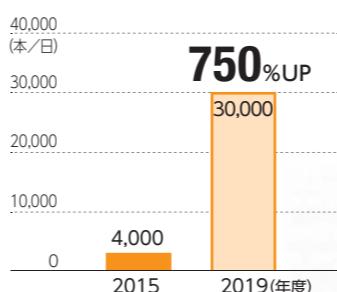
トルコ工場完成予想図

中東・北アフリカ、ロシア、欧州市場に向けたトルコ工場の稼働

トルコ工場の概要

会社名 Sumitomo Rubber AKO Lastik Ticaret A.S.
所在地 トルコ共和国チャンクル県
設立 2013年2月
生産開始 2015年7月
事業内容 乗用車用ラジアルタイヤの製造・販売
従業員数 約270名

トルコ工場の生産能力



当グループは、今後大きな需要の拡大が期待できる中南米・ロシア・中近東・インド・アフリカの新興市場5地域を注力エリアとしています。アフリカ、ロシア、ヨーロッパの中心に位置するトルコでは、2013年2月に合弁会社 Sumitomo Rubber AKO Lastik Ticaret A.S.を設立。2015年7月にトルコ工場での生産を開始します。

2020年の世界のタイヤ需要は約20億本。そのうちの約半分は、中国を含む新興国が占めると予想されています。当グループは、こうした旺盛な需要に対応すべく、生産拠点、販売拠点を整えていくとともに、地域の課題解決に貢献し、地域とともに持続可能な成長ができる企業グループを目指していきます。



新分野の創出

先進技術をベースにした高機能 医療用ゴムのグローバル展開

高齢化が進み医療・介護へのニーズが高まる一方、医療・介護分野の

人手不足は深刻な状況が続いている。住友ゴム工業は、
医療・介護現場で働く人たちへの負荷を少しでも軽減できるよう、
タイヤ事業で培った先進のノウハウを医療用ゴム製品の研究・
開発にあますところなく活用。安心・安全かつ取扱いに優れた
医療用ゴムを2000年から提供しています。2010年には
加古川工場に第二生産工場を設け、生産力を増強。
2013年1月にはバイオ製剤などの特殊な性能が
求められる市場への参入も果たしています。
さらに2015年1月、スイスの
医療機器用ゴム部品会社を買収し、
世界へと市場を広げています。



特殊な性能が求められる医療用部品で、
世界の医療・介護現場に安心と安全を提供

日本で培った高品質・高性能な製品を世界に

医療用部品の製造には高いクリーン度
が求められます。住友ゴム工業は、医薬品
等の製造に必要な品質管理基準である
GMP※1に適合した設備を有し、寸法検査・
外観検査などによって異物が付着してい
ないかを厳しくチェックしています。

日本では、薬剤をあらかじめ充填した
注射器「プレフィルドシリンジ」のガスケット※2で、住友ゴム工業は約6割という高い
シェアを誇っています。このプレフィルド
シリンジは、現場の負担を軽減するととも
に、充填すべき薬剤の間違いを防ぐために、
10年ほど前から増加傾向にあります。

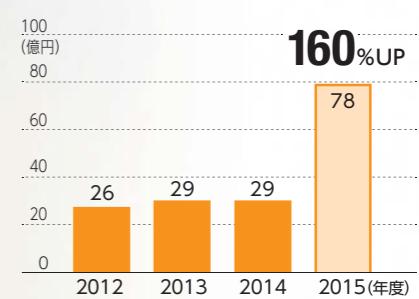
プレフィルドシリンジのガスケットには、
数年保管されても液漏れすることなく気密

性を保つこと、ゴム素材が薬剤に影響を及
ぼさないこと、さらにスムーズに押し出せる
摺動性が求められます。当社は、タイヤ事
業で蓄積してきた高分子・ゴム加工技術を
駆使しながら、薬剤ごとにゴム配合や加工
方法を工夫。顧客ニーズにきめ細やかに対
応した製品を開発・提供してきました。

さらに欧州へと市場を広げるべく、2015
年1月には、スイスに本社を持つ医療機器
用ゴムで世界4位のLonstropp Holding
AGを買収しました。世界3位を目指し、日
本の厳しい基準にも対応できる高品質な
製品をグローバルに展開していきます。

※1 GMP:医薬品等の製造品質管理基準。
※2 ガスケット:押子の先端部分に付けられた
気密を保つためのもの。

医療用ゴム部品の売上高



樹脂製プレフィルドシリンジの
ガスケットのシェア(日本)

約65%

従業員の声



現場の声を製品にスピーディ
に反映できる体制を構築

住友ゴム工業(株) ハイブリッド事業本部
クリーンラバービジネスチーム

橋本 雅典

現在Lonstropp Holding AGでは、主に採
血管用のゴム部品等を中心に製造・販売して
いますが、今後は、これまで日本国内で製造し
ていたプレフィルドシリンジのガスケット等も
スイスで製造していく計画を検討しています。

そのため、これまでの国内2工場体制から
海外工場も含めた3工場での生産体制とな
りますが、国内外での最適な生産配分を検
討し、今後も安定供給に努めています。



製品の設計・開発



厳しい品質管理基準を満たした医療用ゴム部品の生産ライン



医療用ゴム製品



最新鋭の検査装置を導入し、異物の混入を防止

経済・社会の両面で価値を提供し、



プロフィール
池田 育嗣(いけだいくじ)
京都大学工学部卒
1979年住友ゴム工業㈱入社
2000年タイヤ生産技術部長
2003年執行役員
2007年取締役常務執行役員
2010年取締役専務執行役員
2011年3月30日より現職

社会的価値を追求することは、経済的価値の追求とあわせて、企業が持続的な成長を遂げていくために必要不可欠なものであり、住友400年の歴史のなかで脈々と受け継がれてきた理念でもあります。

住友ゴムグループは、すべてのステークホルダーに「世界一の価値」を提供し続けることで、持続的な成長を実現するとともに、社会の持続可能な発展に貢献してまいりました。

社会的課題の解決に貢献しながらさらなる価値創造を目指す長期ビジョン「VISION 2020」

2012年9月に公表した長期ビジョン「VISION 2020」では、「高収益・高成長の真のグローバルプレイヤーになる」とともに、「ステークホルダーにとっての価値向上と、全社員の幸せを追求する」という目標を掲げ、経済的価値と同時に社会的価値を追求する当グループの企業姿勢を織り込んでいます。この目標の達成に向けて、「新たな挑戦」によって次世代の社会に貢献していくという強い意志を全従業員で共有していくためのスローガン「Go for NEXT」を宣言いたしました。

「新たな挑戦」のための成長エンジンとしては、「新市場への挑戦」「飽くなき技術革新」「新分野の創出」の3つの柱を掲げました。

「新市場への挑戦」では、今後の需要拡大が見込まれる中国やブラジル、アフリカ、トルコなど新興諸国を中心とした成長市場での事業の拡大、またタイ農業機械用タイヤ工場では、世界の農業発展、食糧不足解消の一助となることを目指します。

こうした新市場で経済的価値と社会的価値の両方を

持続可能な社会の発展に貢献する

追求していくために、現地の雇用拡大やコミュニティの発展、環境負荷の削減など地域との共生を図っています。

「飽くなき技術革新」の追求によって先進的な製品を世界に提供

「飽くなき技術革新」として、当社独自の100%石油外天然資源タイヤ「エナセーブ100」に続き、さらなる進化技術として高機能バイオマス材料を開発し、2016年に第1世代、2020年に第2世代の商品化技術を確立していく予定です。

また、独自の新材料開発技術「4D NANO DESIGN」をお客様の高性能、高品質なタイヤへの要求に応えるため、さらなる環境配慮と安全性向上に関する重要な基幹技術となる「ADVANCED 4D NANO DESIGN」に進化させ、2016年以降に発売する商品への採用を目指します。

さらに、2012年に発表した革新的な次世代新工法「NEO-T01」による次世代高性能タイヤの第一弾として、日本、欧州でプレミアムランフラットタイヤを発売しました。

「新分野の創出」の一環としては、「ヘルスケアビジネスの展開」に注力しております。今後、拡大が予測される「医療用ゴム部品」分野において、2015年1月から、スイスでの事業を開始しました。製造・販売拠点を欧州にも置き、日本市場で培った「高品質・高性能」を武器に世界に進出し、医療・介護現場に安心と安全をお届けいたします。

高い志で「真に価値」ある企業へ

企業が持続的成長を続けていくためには、企業の社会的使命を果たし、持続可能な社会の発展への貢献を通じて

社会から信頼される存在であり続けなければなりません。そのため「住友ゴムWAY」には従業員が日々の行動のなかで実現していくべき「価値観」と「行動原則」を定め、一人ひとりが高い志を持ち、自由闊達な雰囲気のなかで互いに高め合う企業風土の醸成に努めてまいりました。

さらに、CSR活動基本理念と、「GENKI」のキーワードから成るCSRガイドライン、そしてCSRメッセージ「for you, for the earth(あなたのため、地球のために。)」に基づいて、コンプライアンスや環境保護をはじめとしたさまざまな社会的責任を果たしていくのはもちろん、次の世代を見据え、高い技術力・開発力を持って社会的課題の解決と世界の発展に貢献してまいります。同時に、お客様の安全や快適性を考えた商品開発に努め、品質や経済性を追求するとともに、経営の健全性と透明性を高め、すべてのステークホルダーに対して誠実であり続けていきたいと考えております。

当グループはこれからも人・地域・社会にとって真に価値ある存在であり続けるため、事業基盤を固め、縦と横のつながりの強い、変化に搖るがない組織を築き、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

皆様には引き続き、ご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。また、本報告書に対して、皆様から忌憚のないご意見やご感想を頂戴できれば幸いと存じます。

住友ゴム工業株式会社
代表取締役社長 **池田 育嗣**

CSR活動ハイライト2014

2008年に策定した、住友ゴムグループのCSR活動のガイドライン「GENKI」。ここでは、この「GENKI」に沿った2014年度の取り組みの一部を紹介しています。

G reen 海外各地でも森づくりを推進

国内はもとより、世界各地の工場・販売会社でも緑化活動を推進しています。2014年度は海外で計38,560本の植樹を実施しました。 P.21



タイ工場での植樹活動

E cology 廃熱回収利用でCO₂排出量削減



市島工場で、ゴルフボール製造時に発生するフラッシュ蒸気(湯気)を温水源として再利用する廃熱回収利用設備を導入。CO₂排出量を削減しました。 P.23



国蝶のオオムラサキ

N ext 低燃費+環境配慮タイヤを開発



低燃費性能、耐摩耗・耐偏摩耗性能の向上と、ミニバン特有のふらつきを抑える操縦安定性能、快適な乗り心地を実現するミニバン専用タイヤ「エナセーブ RV504」を開発しました。 P.27



海外でも品質改善活動を強化

インドネシア工場では、品質改善活動が評価され、トヨタカイゼンフェスティバルでも7年連続入賞しました。 P.28

CSRガイドライン

G 緑化 Green

- ① 森づくりを通じた地球温暖化防止への貢献
- ② 森づくりを通じた地域との交流
- ③ 生物多様性の保全

E 事業活動の環境負荷低減 Ecology

- ④ 低炭素社会の構築
- ⑤ 循環型社会の形成
- ⑥ 環境負荷物質管理の推進
- ⑦ グローバル環境経営の推進

N 次世代型技術・製品の開発 Next

- ⑧ 環境配慮商品の開発
- ⑨ 「安全・快適」「経済性」「品質」の追求

K 人にやさしい諸施策 Kindness

- ⑩ 人材育成と働きがいの向上
- ⑪ 安全で働きやすい職場づくり
- ⑫ ワークライフバランスの推進
- ⑬ ダイバーシティの推進
- ⑭ 人権の尊重

I ステークホルダーへの誠実さ Integrity

- ⑮ コーポレート・ガバナンスの充実
- ⑯ コンプライアンスの徹底
- ⑰ ステークホルダーとの対話促進
- ⑱ 社会貢献活動の推進
- ⑲ サプライチェーンマネジメント

* 2014年度に、取り組み指標を追加・改訂しました。 P.44

環境保全を最重要課題と位置づけて「エコ・ファーストの約束」を推進
住友ゴムグループは、地球環境への取り組みを経営上の最重要課題の一つとして位置づけています。2009年3月、当グループは、環境省が創設した「エコ・ファースト制度」に基づき、環境大臣と「エコ・ファーストの約束」を取り交わしました。この約束は、ほぼ達成できましたので、2012年3月に新たな「エコ・ファーストの約束(更新書)」を環境大臣と取り交わしました。



エコ・ファーストの約束とは?

環境トップランナー企業の環境保全に関する行動をさらに促進していくために、企業が環境大臣に対して京都議定書の目標達成に向けた地球温暖化防止対策など、自らの環境保全に関する取り組みを約束します。

K indness 災害ゼロを目指した人づくり

2014年度、定期的な安全教育に53,500名が参加。安全体感教育では50,000名が参加。また、地域の企業や学校に対して同様の教育を1,200名に実施しました。 P.31



階段での転落体感教育

組織活性化のための活動を展開

2007年度から組織の活性化を目的とした「Love Your Work! プロジェクト」を開始。2014年度に実施した「語る場」は、グループ全体で911回に上ります。 P.30



工場と販売会社との「語る場」の様子

I ntegrity CSR調達を推進

コンプライアンスや人権・労働をも包含したCSR調達のため、2014年度、第2回目のアンケートを、約1,100社の取引先に対して実施しました。 P.35



海外拠点でリスク管理研修を開催

グローバルに展開する企業活動に対応できるリスク管理をグループ全体に浸透させるため、2014年度、海外生産拠点でのリスク管理研修会を初めて実施しました。



インドネシア工場でのリスク管理研修

マネジメント・アプローチ

森林は、気候変動の原因となるCO₂を吸収するほか、生物多様性を保全するための重要な場所です。住友ゴムグループは、CSR活動ガイドラインの一つに「Green」(緑化)を掲げて、国内外の各事業所や周辺地域の緑化活動を推進しています。

2009年度には、世界各地の事業所やその周辺地域において、20年間で100万本の木を植えるという「100万本の郷土の森づくり」プロジェクトを開始しました。20年間という当初の目標をはるかに上回るペースで植樹が進み、2014年度に148万本の植樹を達成しました。今後も植樹活動を継続するとともに、森林整備にも注力していきます。

森づくりを通じた地球温暖化防止と地域との交流

従業員の声



緑化は、環境配慮の意識が芽生える良い機会です

住友ゴム工業(株) タイヤ技術本部 第二実験部
西條 光毅

私の部署では、本社・技研地区の緑化活動を積極的かつ継続的に取り組んでいます。

緑化活動は、職場の仲間・家族・OBとともに汗を流すことで、環境に配慮する共通意識が芽生える良い機会になっています。また、奉仕作業の後に大自然のなかで食べる昼食は最高です。特に「丹波口マンの森」での昼食は、地元の方たちが炊き出してくれる豚汁が絶品に美味しいです!多くの従業員が緑化活動を体験できるよう参加を促しています。

国内での緑化活動「GENKIの森」

国内では、事業所内に加えて周辺地域および「住友ゴム GENKIの森」と名づけた緑化活動地にて緑化活動を実施しています。2014年度は「GENKIの森」を2カ所新設し、全国11カ所になりました。

同じ植樹でも外来樹は生態系に悪影響を及ぼすそのため、対象とする苗木をその地域で集めたどんぐりから育てたものに限定。生物多様性の保全を図りながら緑を増やす努力を続けています。



タイ・サタヒップ海岸でのマングローブの植樹

平成26年「海の日」国土交通省海事功労者等表彰を受賞



住友ゴム工業は、2014年7月の「海の日」国土交通省海事功労者等表彰において、「近畿地方整備局長表彰・海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」を受賞しました。植樹活動を通して大阪湾の環境改善に資する森づくりを支援し、良好な港湾の形成に貢献していることが評価されました。



海外における緑化活動

世界各地の工場・販売会社でも緑化活動を推進しています。2014年度は計38,560本の植樹を実施しました。

低燃費タイヤ「エナセーブシリーズ」の売上の一部でマングローブを植樹する「チームエナセーブ」キャンペーンでは、2014年度に24,000本の植樹を実施し、これまでの累計本数は1,119,617本となりました。また、ゴム手袋の売上の一部でマレーシア・ボルネオ島に植樹する「1 PAIR for 1 LOVE」活動では、1,600本の植樹を実施しました。



タイ・サタヒップ海岸でのマングローブの植樹

Team ENASAVE Future Project

チームエナセーブ 未来プロジェクト

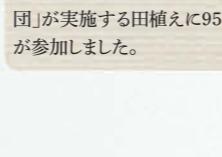
日本全国で失われつつある文化や自然環境の保全を目的に、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟と協働で2013年度から取り組んでいる「チームエナセーブ 未来プロジェクト」を、2014年度は全国10カ所で開催しました。

北海道

白老町
ウヨロ川流域の環境を守ろう!


忍野村
忍野八海の周辺を綺麗に!


越前市
越前にコウノトリを呼び戻そう!


美作市
英田上山の棚田を未来につなごう!


7月13日、「水辺と生き物を守る農家と市民の会」が実施する、草刈りや水草の間引き、田んぼの溝掘り作業に51名が参加しました。

9月14日、かつて8,300枚もの棚田があった岡山県美作市で、NPO法人「英田上山棚田団」が実施する田植えに95名が参加しました。

岩手県

一関市
久保川流域の生態系を取り戻そう!


8月3日、「久保川イーハトーブ自然再生協議会」が実施する、水生物の重要な住処となるため池の造成作業に71名が参加しました。

福岡県

熊谷市
元荒川のムサシトヨを守ろう!


7月20日、「熊谷市ムサシトヨをまもる会」の活動に65名が参加し、絶滅危惧種ムサシトヨが住む元荒川周辺の草刈りをしました。

福岡市
和白千潟の自然を守ろう!


10月19日、「和白千潟を守る会」が実施する自然観察会と和白千潟クリーン作戦に47名が参加しました。

広島県

福山市
鞆の浦の遍路道をキレイに!


6月22日、NPO法人「自然回復を試みる会・ビオトープ孟子」の活動に118名が参加し、無農薬米の田植えを実施しました。

和歌山県

海南市
孟子不動谷で田植えをしよう!


7月27日、「鞆まちづくり工房」「太田家住宅をまもる会」「資料館友の会」が実施する、遍路道の草刈り・清掃に24名が参加しました。

奈良県

鎌倉市
鎌倉の景観を守ろう!


9月20日、「公益財団法人 鎌倉風致保存会」の「みどりのボランティア」活動に54名が参加し、建長寺回春院で草刈りをしました。

DUNLOP

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟

マネジメント・アプローチ

住友ゴムグループは、新しい価値を創出し、持続発展可能な社会の実現に貢献していくことを社会的使命と考え、環境保全活動を推進し、豊かで安全な社会づくりに努めています。

住友ゴム工業は、2009年3月に「エコ・ファースト企業」に認定され、「低炭素社会の構築」、「循環型社会の形成」、「自然との共生」について具体的な数値目標を設定して、取り組みを進めています。

住友ゴム工業の「エコ・ファーストの約束」

1 低炭素社会の構築

- 2015年度に
○ エネルギー起源
CO₂排出量原単位
55%以下(1990年度比)

2 循環型社会の形成

- 国内外の主要生産拠点で
廃棄物の直接埋立量の
「完全ゼロ」を継続
- 2013年度に
100%
石油外天然資源タイヤ発売

3 自然との共生

- どんぐりプロジェクト
毎年**20,000**本以上
植栽
- **生物多様性**に
配慮した取り組み

〔◎〕マークの項目は、第三者検証の対象データです。
原単位は検証データには含まれません。
検証値とは係数が異なるため数値が異なります。

低炭素社会の構築

生産における温暖化防止

2014年度の当グループ国内6工場の生産におけるCO₂排出量は262千t-CO₂(1990年度比89%)となり、前年度から1千t-CO₂増加で、1990年度比15%以上削減という目標は達成できませんでした。原単位は前年度比2.6ポイント削減しました。これは廃熱回収の推進や蒸気ラインの適正化によるものです。

原油換算エネルギー使用量原単位は前年度比1.9ポイント削減しましたが、2000年度比9%以上削減という目標は達成できませんでした。

2014年度の海外9工場、国内関係会社5工場におけるCO₂排出量原単位、原油換算エネルギー使用量原単位は、ともに前年度比3%以上削減という目標を達成できませんでした。

2015年度は、グループ国内外の全拠点での目標達成を目指します。

Topics

市島工場でCO₂削減に向けて廃熱回収利用設備を導入

2014年2月に市島工場では、ゴルフボール製造時に発生する蒸気ドレンを回収する過程で発生していたフラッシュ蒸気(湯気)を温水源として再利用する廃熱回収利用設備を導入しました。回収した廃熱は、新たに設置した温水焚吸式冷凍機で活用し、既設電気式冷凍機の電力使用量を低減するとともに、ボイラー燃料として使用しているLNGの気化熱源として利用し、LNGの使用量を節減しました。

その結果、市島工場の総CO₂排出量を前年度比で1.6%削減することができました。これは当初計画していた効果を20%上回る結果となりました。

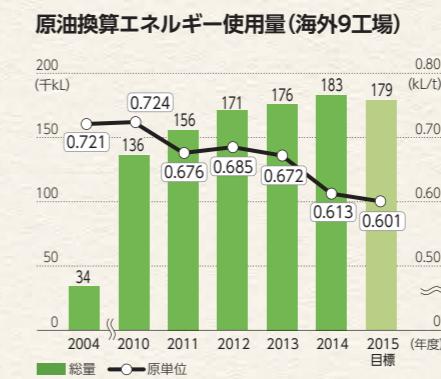
なお、当該設備は、資源エネルギー庁が実施する平成24年度「次世代型熱利用設備導入緊急対策事業」の助成金を活用して導入しました。



温水焚吸式冷凍機と温水貯留タンク



*1 日本ゴム工業会「温室効果ガス排出量算定ガイドブック」による
(原単位)電力排出係数は2004年電力会社公表値を使用。
*2 コージェネレーションを考慮しない総排出量。



*3 日本ゴム工業会「温室効果ガス排出量算定ガイドブック」による
(原単位)電力排出係数はWRI/WBCSD GHG Protocol Initiative Calculation Tool 2004年度を使用。

*4 日本ゴム工業会「温室効果ガス排出量算定ガイドブック」による
電力排出係数は2004年電力会社公表値を使用。

原油換算エネルギー使用量 (国内関係会社5工場)



従業員の声



工場立ち上げから最短で
ISO50001認証を取得

Sumitomo Rubber do Brasil Ltda.
Project Staff

Rogerio Campos

ブラジルでは電力供給の7割が水力発電によるもので、CO₂削減について意識する機会があまりなく、いかに省エネルギーへの理解を深めるかが課題でした。

ブラジル工場では2013年に省エネルギー委員会を設立し、目標を設定して、活動を推進していました。その結果、2015年2月にはエネルギー管理に関する国際規格であるISO50001の認証を取得することができました。これは当グループでは、工場立ち上げから最短期間での取得になり、従業員の意識も高まってきたました。

また他の海外工場と比べるとエネルギー原単位は良くないので、今後は無駄を減らし、改善を重ねていきます。



物流におけるCO₂排出量の削減

2014年度のタイヤ輸送におけるCO₂排出量は35.858千t-CO₂となり前年度比3.6%増加しましたが、原単位は1.8ポイント減少しました。主な要因は平均輸送距離の減少によるものです。

CO₂排出量の少ない輸送方法である鉄道、船に輸送手段を替えるモーダルシフト化率は15.4%と前年度よりも1.5ポイント減少、大型車両化率は23.9%と前年度よりも1.7ポイント増加しました。

2015年度は、車両の大型化、生産と運搬の効率化などの改善活動を推進していきます。



循環型社会の形成

完全ゼロエミッション※1の継続

住友ゴムグループは廃棄物の再資源化を推進し、国内外の主要製造拠点で埋立廃棄物をゼロにする完全ゼロエミッションを2010年3月に達成しました。

新たな拠点における完全ゼロエミッションの計画的な達成と、既存拠点での継続を目指しています。2014年度は中国・湖南工場での完全ゼロエミッションが達成できなかったため、2015年度中の達成を目指します。

マテリアルリサイクル率は、2014年度は81%と前年度とほぼ横ばいでした。2015年度は目標85%を目指します。

※1完全ゼロエミッション：埋立廃棄物量をゼロ、再資源化率100%（当社では再資源化目的で処理された廃棄物の全量を再資源化量としています）。

廃棄物発生量と再資源化率（国内6工場）



マテリアルリサイクル率（国内6工場）



廃棄物排出量※2の削減

廃棄物の有価物化を推進するため、2013年度に管理指標を廃棄物発生量から廃棄物排出量に変更しました。

廃棄物排出量の2014年度実績は、国内6工場では、前年度と比べて原単位で27.3ポイント改善しました。これはタイ

廃棄物排出量（有価物を除く） (国内6工場) ◎



「◎」マークの項目は、第三者検証の対象データです。
原単位は検証データには含まれません。
検証対象：2011・2012年度は廃棄物発生量、
2013・2014年度は廃棄物排出量（有価物を除く）

ヤの焼却灰を有価物化したためです。

海外9工場では原単位で9.1ポイント改善、国内関係会社5社では原単位で6.1ポイント増加でした。

2015年度はさらなる有価物化を推進していきます。

※2 廃棄物排出量は、再資源化（サーマル・マテリアルリサイクル）目的で排出している廃棄物の量を集計しています。

排水のリサイクル

当グループは、排水処理装置の設置や水のリサイクル使用などによって、排水の浄化と排水量の削減に努めています。

世界的な水資源のひっ迫に対応するため、2050年度までに全世界の工場で排水の100%リサイクルを目指しています。現在、「モデル工場1工場で工場排水の100%リサイクルを目指す」を目標に、中国・常熟工場で取り組みを進めています。

その後、他工場へ展開する予定で、これらの技術を確立することで、水ストレスの高い地域への工場進出が可能になり、進出地域の環境負荷低減にもつながります。

排水量（国内6工場）



自然との共生



オオムラサキの観察会（市島工場）



生物多様性の保全

当グループは、すべての生命活動の基盤である生物多様性を構成するさまざまな要素の持続可能な利用に配慮した事業活動を推進しており、生物多様性を保全する活動に取り組んでいます。

どんぐりプロジェクト（P.21参照）は遺伝子の生物多様性保全の活動です。種の生物多様性保全の活動としては絶滅危惧種の保全・育成を行っています。主なものは、白河工場ではカタクリ群生、加古川工場ではキク科フジバカマ、

カヤツリグサ科ナガボテンツキ、バラ科ナガボノフレモコウを、宮崎工場ではキク科ヒゴタイを、神戸地区ではグミ科アリマグミを、市島工場では国蝶オムラサキです。

2014年4月には、加古川工場で育成したフジバカマ100株を国土交通省と、兵庫県立大学服部名誉教授のご指導により元の自生地である加古川河川敷に移植しました。90株が根付き順調に育っています。



フジバカマの加古川河川敷への移植
(加古川工場)

ステークホルダーの声



フジバカマが加古川に根付いてきました

国土交通省 近畿地方整備局

姫路河川国道事務所 調査第二課 課長

豊田 陽介 氏

国土交通省では、河原の草地化、樹林化が進む加古川で、かつての川と人との関わりの深かった時代の河川環境を目指し、生物の生息・生育・繁殖環境となる「わんど」などの河川環境の保全・再生を行っています。しかし、再生後の河原は、そのままでは再び、元の草地や樹林に戻ってしまいます。

いま、住友ゴムさんが育て移植した加古川産フジバカマなどの植物がしっかりと加古川に根付いてきました。今後、これらの植生が広がっていくことで、良好な河川環境の維持が期待できます。

グローバル環境経営の推進

ISO14001グローバル統合認証

当グループは、低炭素社会の構築をはじめ企業活動のすべてにおいてグローバルな管理ができるよう、2010年12月に国内外30拠点でISO14001のグローバル統合認証を取得しました。これにより、国内外の主要生産・開発拠点

の環境管理体制が一元化されました。

2014年度は、新拠点のブラジル工場が新たに認証を取得し、グローバル統合認証に加わりました。

さらに、2015年度に稼働を開始するトルコ工場では、2016年度の認証取得を計画しています。



グローバル環境管理中央委員会

全従業員に占めるISO14001認証取得事業所従業員数割合



注 臨時従業員を含む（2014年12月末時点の人員）。

Next 次世代型技術・製品の開発

Next-generation product development

マネジメント・アプローチ

住友ゴムグループは、地球環境にやさしい製品開発の推進により、社会の持続的発展と企業の成長を同時に実現することを目指しています。

特にタイヤは、原材料に石油を使用するとともに、ライフサイクルにおけるCO₂の8割以上が使用時に排出されることから、環境配慮商品の開発テーマとして大きく「石油外天然資源の活用」と「低燃費性」の2つを掲げて取り組んでいます。



環境配慮商品の開発

低燃費タイヤの開発

住友ゴム工業のタイヤ部門は、環境配慮自社基準を策定し、タイヤの高性能化にとどまらず、石油外天然資源の活用や低燃費性、特殊吸音スponジの搭載など、地球環境保護や快適性に配慮した商品を生み出しています。

2015年2月に発売したミニバン専用の「エナセーブ RV504」は、当社独自の新材料開発技術「4D NANO DESIGN」を駆使して、低燃費性能と耐摩耗・耐偏

摩耗性能を向上させるとともに、ミニバン特有のふらつきを抑える操縦安定性能と快適な乗り心地を実現しました。

耐久性に優れたロングペイル人工芝「ハイブリッドターフEX」

人工芝の選定基準の第1位である「耐久性」を徹底的に追求し耐用年数10年を実現した「ハイブリッドターフEX」を2014年9月に発売しました。肉厚のヤーン(原糸)を使用することで、従来品の2倍以上の耐用年数を可能にするとともに、肉厚にすることで起りがちな肌触りの硬さがなく、しなやかさを両立させました。

首都圏の学校や運動公園を中心に、導入実績は5万m²を超みました。

Topics

「エナセーブ100」が各種の賞を受賞

2013年11月に発売した石油外天然資源タイヤ「エナセーブ100」のコンセプトが評価され、多くの賞を受賞しました。



欧州の「Tire Technology Expo 2014」で「Environmental Achievement of the Year」



平成26年度 県エネ大賞「資源エネルギー庁長官賞」



エナセーブ
RV504

転がり抵抗 13% 低減

耐摩耗性能 8%
耐偏摩耗性能 33% 向上

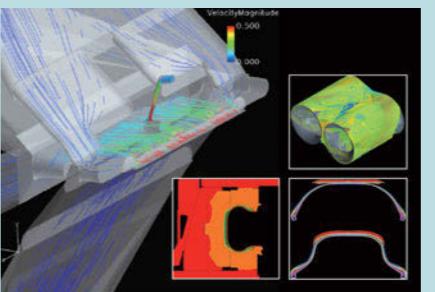
注 当社從来品「エナセーブ RV503★」比

Topics

タイヤ製造プロセスにおけるシミュレーション技術 「Tyre Manufacturing Simulation」を開発

住友ゴム工業はこれまで培ってきたシミュレーション技術の活用の幅を広げ、タイヤ製造プロセスの各工程で起こっている現象を可視化することによってメカニズムを解明し、製品の品質を正確に予測することができるシミュレーション技術を開発しました。

タイヤの製造プロセスには、原料ゴムとカーボンなどのフィラー(充填剤)を練り合わせる「混練」工程、ゴム部材を一定寸法のシート状に加工する「押出」工程、トレッドパターンなどが施された金型に入れて熱を加えて製品を仕上げる「加硫」工程など、さまざまな工程があります。これらの工程で何が起こっているかをシミュレーションすることで、工程設計および設備改善の最適化によるタイヤ品質の向上やタイヤ開発時の精度向上が図れ、環境負荷低減にも貢献します。



「安全・快適」「経済性」「品質」の追求

品質マネジメントシステム

当グループの品質マネジメントシステムは、自動車用部品・サービス部品の国際規格であるISO/TS16949*を基に構築しています。

また、2014年5月に、本社、岡山タイヤテストコースと国内各工場のタイヤ性

能試験において、試験所及び校正機関の能力に関する一般要求事項の国際規格であるISO/IEC17025の認定を取得しました。

* ISO/TS16949: ISO9001をベースに自動車業界固有の要求事項を追加した品質マネジメントシステム規格。

タイヤ安全点検の実施

タイヤに起因する事故の未然防止を目的に、「ダンロップ タイヤ安全プロジェクト」を、2008年度から全国47都道府県の道の駅やショッピングセンターなどで年2回開催しています。タイヤの空気圧や残溝などを点検するとともに、タイヤの安全で正しい使用・管理方法を紹介するなど、ドライバーの皆様に



インドネシア工場は、品質改善活動が評価され、トヨタカイゼンフェスティバルで7年連続入賞

従業員の声



タイヤ開発の効率化、環境負荷低減に貢献します

住友ゴム工業(株)研究第一部 課長
角田 昌也

Tyre Manufacturing Simulationを研究テーマとして立ち上げた当初は、予測精度がなかなか上がりず、苦労の連続でしたが、今は生産技術、シミュレーションの専門家が一堂に会し、チームワークでシミュレーションによる見える化、メカニズム解明、アイデア出し、アイデア検証を行っています。

今後もシミュレーションの有効活用を推進し、タイヤ開発を効率化し、環境負荷低減にも貢献していきます。

タイヤの日常点検の重要性を訴求しています。

これまでの6年間で延べ5万7千台を超える車両のタイヤ点検を実施しました。



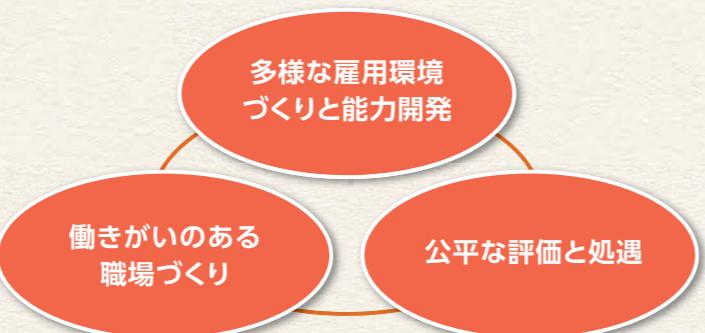
タイヤの安全点検

マネジメント・アプローチ

従業員が住友ゴムグループで働くことで満足を得られ、従業員の成果によって住友ゴムグループも成長する。そのような健全な関係を構築するために、処遇制度・研修体制などのさまざまな仕組みや施策を通じて従業員に成長の機会を公平に提供する責任があると、当グループは認識しています。

昨今、日本において社会的に女性の活躍推進が求められているなかで、住友ゴム工業でも女性社員の働きやすい環境づくりと活躍推進に力を入れています。

住友ゴムグループ雇用の基本方針



人材育成と働きがいの向上

人材育成

当グループでは、人材開発部・製造研修部、各所属部署、各個人の自己研鑽を三位一体と捉えています。若手層には論理的思考など基礎的なスキルを、マネジメント層には組織力の最大化や組織活性化に資する実践的な能力強化を図るなど、従業員の成長意欲を尊重し、自発的な「気づき」を促す研修を通して、個人の成長をサポートしています。

海外関連会社の人材育成については、「問題解決力のレベルアップ」「住友ゴム式のマネジメントの理解」「住友ゴムWAYの理解・実践」の3つを重要テーマとしています。

2014年度は各現地法人において、

当社の経営の根幹となる最も重要な考え方である「住友ゴムWAY」の浸透活動の推進に注力しました。

モノづくり教育

製造研修部では、国内外で統一したモノづくり教育を推進すること目的に、「技能とモノづくり哲学の伝承」と「グローバル展開への対応」をテーマとする研修コースを整えています。

2014年度は、設備保全の技能のノウハウを伝承すること目的に、これまで実施していた監督職の研修に加えて、新人を直接指導するさらに若手訓練者のための研修、その若手訓練者を教えるトレーナーの研修など、教育・訓練の場を増やしました。

白河研修所での研修には、延べ1,946名が受講しました。

海外工場における
住友ゴムWAY
浸透活動の様子

技能オリンピックの開催

モノづくりの技能伝承と意欲向上を目的に、半年に1回、技能オリンピックを開催しています。製造工程を8つに分けて、1大会につき一つの工程を対象として、国内外の各工場から選抜された若手社員が、その技能を競い合います。

2014年度は、ブラジル工場が初参加ながら優秀な成績を収め、技能伝承が海外でも展開されていることが確認できました。



技能オリンピック第10回大会(機械保全)



技能オリンピック第11回大会(加硫金型)



技能オリンピック第11回大会(加硫金型)

従業員と経営者の対話

当グループは、経営層と従業員の間で問題意識を共有し、意見交換できる機会を定期的に設けています。2006年度から開催している社長懇談会では、若手や女性社員などテーマごとに1回あたり10~20名程度が参加し、その場限りのオフレコで、仕事上のアドバイス、社長の人生観、家族・趣味など、何でも自由に語り合います。

2014年度は9回開催し172名が参加し、当社の良いところ・改善すべきところをざっくばらんに意見交換しました。

今後も、こうした対話の場を社内のあらゆる部門・層で設けていきます。

Love Your Work! プロジェクト

当グループは、「人にやさしい、夢をかたちに」をテーマに、2007年度から組織の活性化を目的とした「Love Your Work! プロジェクト(略称:LYWP)」に取り組んでいます。

2014年度は、縦と横のつながり・組織の活性化を期待し、主に「語る場」と「LYW STYLE活動」の2つの活動に取り



年代や部門を越えて語り合う「ランダム語る場」



工場と販売会社との「語る場」



Topics

従業員アンケートの結果を職場環境の改善に活用

住友ゴム工業では、2007年度から定期的に全従業員を対象に従業員アンケートを実施しています。5回目となる2014年度のアンケート結果では、当社の将来性を期待する項目が他社平均値と比較して非常に高いレベルとなりました。また、当社の理念である「住友ゴム WAY」については、約80%の従業員が認知していると答えており、従業員への浸透度が高まっていることが確認されました。

他方、働き方の変化に対する意見も出されており、2015年度は各部門にフィードバックして働きやすい環境の整備に役立てています。

2016年度には取り組み状況を確認するなど、働きやすい職場環境づくりに向けて改善を続けます。

従業員アンケート調査結果



従業員の声



チームで悲願の金メダルを獲得しました

住友ゴム工業(株) 宮崎工場
製造第四課 モールド班

鈴木 陽介

真っ先に浮かんだのは、仲間の顔と感謝の気持ちでした。過去、技能オリンピックは宮崎工場の10名の選手が跳ね返ってきた高い壁です。先輩方から受け継いだ技術と万全のサポート体制のもと、練習を重ねてきました。当日は皆の期待を背に緊張しましたが日頃の正確かつ、スピーディな作業を心掛けた結果、宮崎工場初の「金メダル」を持ち帰ることができ、誇りに思います。

この経験を後輩への技術の伝承に活かしていきます。

安全で働きやすい職場づくり

災害ゼロへの挑戦

当グループは危険ゼロ・災害ゼロを目指して、危険因子を排除し本質的に安全性を高める先取り型安全活動を推進しています。また現地現物で安全監査や安全観察を積極的に実施しています。

2013年度に海外工場で発生した重篤災害を受けて、設備と人の分離、さらに人が危険な場所に入れば設備が止まるなどの設備安全対策を進めるとともに、「ルールを守る」「安全意識を高める」「管理監督者が責任を果たす」の「安全な人づくりの3原則」をグループ全体に浸透させる実践活動を進めてきました。しかしながら2014年度は海外工場の経験の少ない若手社員を中心に、災害に遭うケースが増え、災害件数は52件と前年度から19件増加しました。

今後は、過去災害の危険性を体感させ、職場で安全ルールを守っているかの確認も確実に実施し、どんなときでもルールを守れる安全な人づくり活動を進め、災害ゼロを目指して活動を続けていきます。

労働災害発生状況(休業災害度数率*)



* 災害度数率：延べ実労働時間100万時間あたりの労働災害による死傷者数。
災害度数率＝労働災害による死傷者数／延べ実労働時間×1,000,000

労働安全衛生マネジメントシステム

当グループでは、労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格OHSAS18001の認証取得を進めています。

2014年度には、ブラジル工場をはじめ、5拠点で新たに認証取得し、取得拠点は11になりました。

2014年度のOHSAS18001認証取得拠点

取得年月	取得工場
2014年9月	ブラジル工場
2014年11月	インドネシア工場
2014年11月	中国・湖南工場
2014年11月	タイ・天然ゴム加工工場
2014年12月	白河工場

安全衛生に対する教育・啓発活動

当グループは「災害ゼロ」を目指すために最も重要な要素は「安全な人づくり」と考え、階層別教育やフォローアップ教育等で技能と知識の習熟度を確認しながら定期的に安全衛生に対する教育・啓発活動を進めています。

2014年度は、定期的な教育に53,500名の従業員が参加しました。

ほかにも、実際の機械模型などを用いて災害の怖さを体感する安全体感教育で、危険に対する感性を高めています。この安全体感教育には50,000名の従業員が参加しました。また、地域の企業や学校からの要請を受け入れて同様の教育を1,200名に実施しました。

2015年度は、「災害に遭わないために、どう行動するか」などをテーマに、少人数のグループで気軽に本音で話し合い、考えて、自らの行動目標を決めて現場で実行する「安全の語る場」を広め

て、自主的な安全教育活動を充実させ、さらに「安全な人づくり」を進めます。



安全体感教育
(白河工場：動力車の死角体感教育の様子)

従業員の声



完全無災害の継続を目指します

ダンロップスポーツ(株)
生産本部市島工場 総務課 職長

桃津 新吾

市島工場では、「ルールはなぜあるのか」「ルールをなぜ守らなければならないのか」を、安全体感教育を中心に、協力企業を含め全従業員に対して、年間を通して徹底しています。結果2014年度は、完全無災害を達成することができました。

グループの過去災害事例を基に、工夫を凝らした体感教育を地道に継続して実施し、2015年度も完全無災害の達成を目指します。

生活習慣病への対応

2014年度は、生活習慣病対策には若いころからの健康チェックが重要であるため30歳での血液検査を追加し、特定健康保険指導の強化のため、健康保険組合に保健師を採用しました。

また、喫煙による健康被害をなくすため、2020年度までの屋内全面禁煙と喫煙率半減を目標としています。2014

年度は受動喫煙防止と吸いにくい環境づくりを目指して、屋内喫煙所を屋外に移すことを中心に進めました。また、5月30日の全社禁煙デーには、事業所ごとに、一日構内禁煙、タバコ販売中止、禁煙セミナー、禁煙ポスター掲示等の啓蒙イベントを実施して、全員が「タバコについて考える」機会にしました。



禁煙セミナー

ワークライフバランスの推進

女性の活躍推進

住友ゴム工業は、女性の活躍を推進するため、女性総合職の採用の拡大と、女性管理職の登用に取り組んでいます。2015年の新卒採用の女性比率を約30%に引き上げるとともに、2020年までに女性管理職を倍増することを目標としています。

2015年度には、産休・育休からの早期復職支援の施策として、2歳未満の子を託児所などに預ける社員に対して託児補助を給付する「託児サポート制度」を導入し、女性のキャリア形成の支援体制を強化しました。

今後も、性別に関係なく、優秀な人材がより活躍できるよう職場の環境整備に努めています。

過去5年間で9名が取得しています。2009年度にはタイヤ業界初の「くるみん」認定企業となり、2013年度も継続して認定されています。

2014年度には退職者復職制度として「JOBリターン制度」を導入し、結婚や配偶者の転勤などやむを得ない家庭の事情で退職した社員が、正社員として復職できるようにしました。転勤をともなわないコースが選択できるなど、多様な働き方に柔軟に対応しています。

今後も従業員がそれぞれの事情に合わせて働く環境整備を目指し、制度の拡充、活用を推進していきます。

育児休業制度利用者数



従業員の声



制度を活用するには従業員の理解が大切です

ダンロップスポーツ(株) サプライチェーン部 課長

和辻 典子

以前と比較し、育児介護支援制度はかなり充実し、実際に制度を活用して仕事と両立する女性が多くなっています。

今後、男性の育児休業や、男女を問わず介護休業の取得を推進するには、『周囲の理解』『評価への影響』などの不安を払拭することが必要だと思います。

会社には、制度の充実に見合った従業員意識の向上のための取り組みを期待します。

仕事と家庭の両立支援

住友ゴム工業では、育児・介護に配慮した勤務形態の導入、時間外労働の削減、有給休暇取得の推進など制度の整備や啓発活動に取り組んでいます。

出産した女性従業員の育児休業取得率は100%であり、また男性従業員も

ステークホルダーとの対話促進

お客様への製品・サービスの充実

タイヤ事業：接客技術の向上

2006年度から直営店の接客力向上のため「全国接客コンテスト」を開催しています。9回目となる今回は、他社に先駆けて導入したiPad接客アプリ「タイヤコンシェルジュ」を用いた接客の流れをロールプレイング形式で競いました。

初めてiPadを使うことで緊張感の漂うなか、ダンロップタイヤ関東(株)タイヤセレクト鷺宮の帆苅 真哉さんが優勝に輝きました。アプリを活用した、非常にスマートで安心感のある接客が高く評価されました。直営店では今後も、お客様目線に立った接客を心掛け、ダンロップのファンづくりに取り組んでいきます。



全国接客コンテストの様子

スポーツ事業：カスタマーサポート

ダンロップスポーツ(株)は、「お客様相談室」や「アフターサービスセンター」を開設し、迅速、丁寧な対応を心掛け、顧客満足度の向上に努めています。

2014年度は、新発売された主力製品であるゴルフクラブ「ゼクシオ8」や、スリクソンnewZシリーズについての問い合わせ、相談が多く寄せられ、当社製品に対する関心の高さがうかがえました。

アフターサービスセンターでは、

2013年2月より土日の営業を開始し、休日でも店舗からの問い合わせに迅速に対応できる体制を整えました。

お客様目線に立ち、寄せられた声を、製品開発や品質向上、よりお客様にわかりやすい製品情報の積極的な提供に活用していきます。

産業品その他事業：「アースデイ東京」への出展

一般向けの手袋・生活用品を販売する(株)ダンロップホームプロダクツは、2014年度も、地球について考えるイベント「アースデイ東京」に出演しました。

燃やしても有害なガスがほとんど発生せず、土中で分解される天然ゴム製の家庭用ゴム手袋「樹から生まれた手袋」を展示販売するとともに、原料である天然ゴムの特性を活かしたスーパーボールづくりなど、お子様向けのイベントを実施しました。また、この手袋のお買い上げ1双(1 Pair)につき1円を、マレーシアでの植樹活動(P.21参照)や、女性の健康を支える日本乳がんピンクリボン運動、男性の家事・育児への啓発活動に寄付する「1 PAIR for 1 LOVE」キャンペーンについて紹介しました。



「アースデイ東京」でのイベントの様子

取引先とともにCSR調達を推進

住友ゴムグループは、品質・価格・納期だけでなく、コンプライアンスや人権・労働をも含めたCSR調達を目指しています。2011年度には、約1,100社の取引先に第1回目のCSRアンケートを実施し、その結果をもとに意見交換会も開催してCSRへの理解を深めてきました。

2014年度も2011年度と同様、約1,100社の取引先に対して第2回目のCSRアンケートを実施、その結果を受けて2015年度に意見交換会を開催します。

株主・投資家とのコミュニケーション

住友ゴム工業は、株主・投資家の皆様とのコミュニケーション(IR活動)として、IR情報サイトで業績推移などの各種データを開示しているほか、アナリスト・機関投資家向け説明会を四半期ごとの決算発表時などに開催しています。また、個別ミーティングや取材の場を適宜設け、企業経営や事業活動について説明しています。

最近では、国内外の機関投資家である大株主の皆様との相互理解・信頼を深める継続的なコミュニケーション(SR活動)を実施。直接対話を通じ、より広範な情報提供、意見交換を行っています。

これからも株主・投資家の皆様の声を、経営やIR、SR活動に活かしていきます。

社会貢献活動の推進

CSR基金

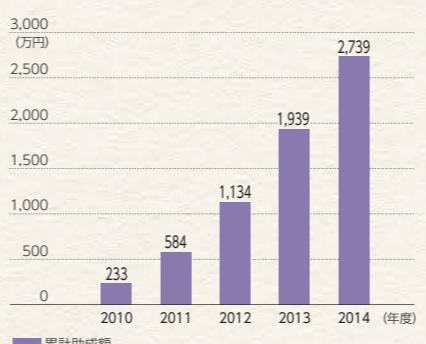
住友ゴム工業は、2009年度に、事業所がある地域における社会問題の解決に取り組む団体を資金面で支援するため、「住友ゴムCSR基金」を設立。これは、趣旨に賛同した従業員と会社との「マッチングギフト方式」で運営しており、助成団体は事業所とNPO中間支援センターの推薦などをもとに選定しています。

2014年度は、福島県・東京都・愛知県・大阪府・兵庫県・宮崎県の6地域32団体に計800万円の助成金を拠出しました。



助成先「住みよいまち沖水」協議会の活動

CSR基金の累計助成額(住友ゴム工業(株))



Topics

名古屋工場が「都市と農山村の交流に関するパートナーシップ協定」を締結

名古屋工場は、2014年8月、愛知県豊田市東萩平町と「都市と農山村の交流に関するパートナーシップ協定」を締結しました。この協定は、豊田市が推進する、都市部と農山村部が共存する市の特徴を活かし、都市部と農山村部がお互いの強みを活かし、弱みを補い合うことで、お互いの問題を解決し、ともに豊かさが実感できる“暮らし満足都市”的実現を目指す活動です。

名古屋工場ではこれまで植樹活動などを実施していましたが、今回の協定によって、活力ある持続可能な地域の実現に向けて東萩平町と協働で活動を継続します。



調印式の様子

地域の市民活動団体との対話・協働

当グループでは、各拠点の窓口やCSR推進室が主管部署となって地域住民や市民団体との対話や協働を積極的に進めています。2009年度からは毎年、ステークホルダー・ダイアログを継続実施しています。また、CSR推進室が中心となって、さまざまなステークホルダーの工場見学会や情報交換会などの対話を推進し、地域とのつながりを深めています。対話を通じて、ステークホルダー目線で事業活動がコミュニティに与える影響や課題の把握に努めています。

いただいたご意見などは、必要に応じて関連部署と調整し、経営会議で内容を審議し、各窓口にフィードバックしたり、サービスの改善や、社会的・経済的価値の創出につながる社会貢献活動に活かしたりしています。

2014年度は、国内拠点で延べ192の社会貢献活動に取り組みました。



住友ゴムCSR基金は市民目線の助成金です

うおづみん・ふるさと創生プロジェクト 事務局長
川島 幸夫 氏

市民活動で苦労することの一つが資金です。行政や企業などがいろいろな助成をしていますが、手続きの煩雑さや厳しい使用条件などからかなり手間がかかります。そのなかで今年2年目となる住友ゴムCSR基金は異彩を放っています。NPOの推薦で所定の審査と面接を行い、決定後はすぐ助成金が振り込まれ活動に使えます。また使用費目的制限も緩やかで非常に管理しやすいです。信頼関係の上に成り立つ市民目線を理解された助成金だと感じ感謝しています。

宮崎工場

地域の課題・ニーズに応じた 取り組み・支援を実践するために

宮崎県都城市に所在する宮崎工場は、近くに住宅地もあり、操業開始当初から地域住民と密接な関係を築いてきました。来年には操業40周年を迎える宮崎工場で、都城市や、宮崎工場のある沖水地区の地元自治会、ボランティア団体の方々とのステークホルダー・ダイアログを2015年4月に開催し、工場に対する忌憚ないご意見・ご要望をおうかがいしました。

宮崎工場の概要

宮崎工場は、国内では白河工場に次ぐ主力タイヤ製造工場です。ゴルフクラブを製造するグループ会社(株)ダンロップゴルフクラブが隣接しています。

所在地 〒885-0004 宮崎県都城市北町3番
操業開始年 1976年
従業員数 1,438名(2014年12月末現在)
敷地面積 268,000m²
主要製品目 自動車タイヤ



ダイアログの参加者

地域のステークホルダーの皆様

都城市役所 商工観光部

① 鬼束 洋一郎 氏

② 中島 幸二 氏

NPO法人 都城大淀川サミット

③ 奈下 信芳 氏

(福)なかま福祉社会 さんやばる保育園

④ 野口 裕子 氏

松之元自治公民館

⑤ 楠牟禮 哲也 氏

都城市北諸地域
安全パトロール隊

⑥ 本薦 篤則 氏

旭自治公民館

⑦ 成田 洋 氏

中東原自治公民館

⑧ 久保田 澄男 氏

松之元クラブ

⑨ 宮内 勇 氏

宮崎工場

⑩ 北条 敏明 氏

CSR推進室長

⑪ 岩切 哲 氏

総務担当

⑫ 井上 志保子 氏

総務担当

⑬ 大塚 浩史 氏

工場長

⑭ 岩田 拓三 氏

環境担当

⑮ 川畑 褒修 氏

総務担当

⑯ 丸山 順和 氏

松之元クラブ

⑰ 宮内 勇 氏

宮崎工場

⑱ 北条 敏明 氏

CSR推進室長

⑲ 岩切 哲 氏

総務担当

⑳ 井上 志保子 氏

総務担当

㉑ 大塚 浩史 氏

工場長

㉒ 岩田 拓三 氏

環境担当

㉓ 川畑 褒修 氏

総務担当

㉔ 丸山 順和 氏

松之元クラブ

㉕ 宮内 勇 氏

宮崎工場

㉖ 北条 敏明 氏

CSR推進室長

㉗ 岩切 哲 氏

総務担当

㉘ 井上 志保子 氏

総務担当

㉙ 大塚 浩史 氏

工場長

㉚ 岩田 拓三 氏

環境担当

㉛ 川畑 褒修 氏

総務担当

㉜ 丸山 順和 氏

松之元クラブ

㉝ 宮内 勇 氏

宮崎工場

㉞ 北条 敏明 氏

CSR推進室長

㉟ 岩切 哲 氏

総務担当

㉟ 井上 志保子 氏

総務担当

㉟ 大塚 浩史 氏

工場長

㉟ 岩田 拓三 氏

環境担当

㉟ 川畑 褒修 氏

総務担当

㉟ 丸山 順和 氏

松之元クラブ

㉟ 宮内 勇 氏

宮崎工場

㉟ 北条 敏明 氏

CSR推進室長

㉟ 岩切 哲 氏

総務担当

㉟ 井上 志保子 氏

総務担当

㉟ 大塚 浩史 氏

工場長

㉟ 岩田 拓三 氏

環境担当

㉟ 川畑 褒修 氏

総務担当

㉟ 丸山 順和 氏

松之元クラブ

㉟ 宮内 勇 氏

宮崎工場

㉟ 北条 敏明 氏

CSR推進室長

㉟ 岩切 哲 氏

総務担当

㉟ 井上 志保子 氏

総務担当

㉟ 大塚 浩史 氏

工場長

㉟ 岩田 拓三 氏

環境担当

㉟ 川畑 褒修 氏

総務担当

㉟ 丸山 順和 氏

松之元クラブ

㉟ 宮内 勇 氏

宮崎工場

㉟ 北条 敏明 氏

CSR推進室長

㉟ 岩切 哲 氏

総務担当

㉟ 井上 志保子 氏

総務担当

㉟ 大塚 浩史 氏

工場長

㉟ 岩田 拓三 氏

環境担当

㉟ 川畑 褒修 氏

総務担当

㉟ 丸山 順和 氏

松之元クラブ

㉟ 宮内 勇 氏

宮崎工場

㉟ 北条 敏明 氏

CSR推進室長

㉟ 岩切 哲 氏

総務担当

㉟ 井上 志保子 氏

総務担当

㉟ 大塚 浩史 氏

工場長

㉟ 岩田 拓三 氏

環境担当

㉟ 川畑 褒修 氏

総務担当

㉟ 丸山 順和 氏

松之元クラブ

㉟ 宮内 勇 氏

宮崎工場

㉟ 北条 敏明 氏

CSR推進室長

㉟ 岩切 哲 氏

総務担当

㉟ 井上 志保子 氏

総務担当

㉟ 大塚 浩史 氏

工場長

㉟ 岩田 拓三 氏

環境担当

㉟ 川畑 褒修 氏

総務担当

㉟ 丸山 順和 氏

松之元クラブ

㉟ 宮内 勇 氏

宮崎工場

㉟ 北条 敏明 氏



工場周辺の清掃活動をしています



ダイアログ参加者からは
ときに厳しく、ときに温かい
ご意見が多数寄せられました



ダイアログ参加者に
工場内をご説明しました



地域住民との
グラウンドゴルフ大会



工場近隣の小学生の安全のため
学童誘導しています



新燃岳噴火の際には
除灰ボランティアを実施しました



皆様のご意見を今後の
工場運営に活かしていきます

地域交流と高齢化支援

金銭と人的資源の両方で、地域の問題解決に貢献する

宮崎工場は、地域と密着した工場を目指して、2007年度から敷地内のグラウンド（野球場）や緑地帯を地域の方に開放しています。2014年度にはグラウンドは約7,600名、緑地帯は約5,600名の方にご利用いただきました。また、2007年から地域の方と毎年グラウンドゴルフ大会を開催しています。ご高齢者では90歳以上の方も含む、約240名の地域住民の方に参加していただき、地域との交流を図っています。

また従業員ボランティア活動として、工場周辺の清掃活動や、近隣施設の窓ふきボランティアなどを実施しています。

宮崎工場の周辺地域においても高齢化は切実な問題の一つです。今後も住友ゴムCSR基金による助成や従業員ボランティアの派遣などによって支援をしていきます。

松之元クラブ 宮内氏からの期待・意見

● グラウンドゴルフのサークルである「松之元クラブ」では、宮崎工場内のグラウンドを利用しています。普通であれば、工場内に部外者が入ることなんてありませんが、地域住民のために開放してもらえるのはありがたいことです。住友ゴムさんの主催でグラウンドゴルフ大会を開催し、地域住民だけでなく、工場の従業員の皆さんと一緒にプレーができて、楽しい時間が過ごせました。地域に溶け込んでいる住友ゴムさんの姿勢が素晴らしいと思います。

● グラウンドゴルフ場緑地には、現在トイレを一つずつ設置してもらっていますが、高齢者が多く、女性もいるので、足りません。トイレの数を増やしてもらえると嬉しいです。

松之元自治公民館 楠牟禮氏からの期待・意見

● 高齢者が増えると、認知症の方も増えます。家庭面倒が見きれないというケースも起きてきます。2014年に県内初の「認知症カフェ」を都北町にオープンしました。認知症の方やご家族、地域の住民の方の集いの場として開放しています。高齢化は一地域だけの問題ではなく、地域全体の問題です。将来的に、認知症の方々が気軽に癒せる場所を作りたいと考えています。

また今回、住友ゴムCSR基金の助成を活用させていただくことになりました。

● 小さな農園があり、野菜などの種をまいて栽培し、料理して食べるといった構想もあります。ご高齢者なので、若い人の協力が欠かせません。住友ゴムさんの従業員ボランティアの方に協力していただき、地域と一緒に問題に取り組んでいってもらえると心強いです。

● 会社によっては盆踊り大会を開催しているところもあります。宮崎工場にも広い緑地があって環境も良いので、地域住民が参加できる盆踊り大会を開いてはどうでしょうか。さらに地域との一体感が増すと思います。

中東原自治公民館 久保田氏からの期待・意見

● 週に2回は、15~16名でグラウンドゴルフをさせてもらっています。自転車で来ていますが、正門から入るには遠回りをしなければなりません。そう言うと、裏口を開けてくださり、本当に助かっています。

ダイアログを終えて

住友ゴム工業(株)宮崎工場から

グラウンドゴルフ場緑地のトイレの件は善処をさせていただきます。

高齢化の問題は、地域のみんなでサポートする体制・仕組みづくりをしていかなければならぬ課題であると考えています。当工場も微力ながら支援をさせていただくことで、この地区的サポート体制がほかの地域に対するモデルとなれば幸いです。

また今回、住友ゴムCSR基金の助成を活用させていただくことになりました。

● 小さな農園があり、野菜などの種をまいて栽培し、料理して食べるといった構想もあります。ご高齢者なので、若い人の協力が欠かせません。住友ゴムさんの従業員ボランティアの方に協力していただき、地域と一緒に問題に取り組んでいってもらえると心強いです。

安全と地域活性化

地域住民の安全に貢献し、地域の模範となる企業を目指して

宮崎工場では、地域の子どもたちの安全を守るために、1981年から小学生の登下校時の学童誘導に協力をしています。また住友ゴムCSR基金によって、地域の安全に関わる社会貢献活動に取り組んでおられる団体を助成しています。さらに災害対策にも取り組んでおり、2010年に宮崎県で猛威を振るった口蹄疫の流行に際しては消毒ボランティアに取り組むほか、2011年の霧島連山新燃岳の噴火に際しては灰を除去するボランティア活動に重点的に取り組みました。

また宮崎工場の従業員数は、沖水地区の人口の約1割を占めます。宮崎工場ではその影響の大きさを重く受け止めながら、地域の活性化につながる支援活動、交流活動に努めています。

都城・北諸地域安全パトロール隊 本薦氏からの期待・意見

● 「青パト」と呼ばれるパトロール隊が地域を巡回しています。現在112名の隊員があり、47台の車が登録されています。隊員になるには宮崎県警本部長の講習を受けなければならず、車も陸運局に登録する必要があります。さらに、1回1時間ほど巡回してもらうと、10リッターくらいガソリンを消費します。登録料もガソリン代も隊員の自己負担です。青パトが巡回すると目に見て泥棒が減りますが、すべてが隊員の皆さんとの協力のもとにやっていることなので非常に苦慮しています。

● 昨年、登録車がない地区が出てきました。そこで住友ゴムCSR基金を活用させていただき、中古車を購入して必要な設備を設置して青パトに仕立て上げました。隊員の皆さんに利用してもらっています。

中東原自治公民館 久保田氏からの期待・意見

● 沖水地区全体で、住友ゴムCSR基金によって、子ども用の見守りジャケットや交通安全のぼり旗、子どもの横断歩道用のシールなどを購入させてもらいました。みんな喜んでいます。

旭自治公民館 成田氏からの期待・意見

● 昭和20年から毎年、沖水地区では運動会を開催しており、2015年で70回になります。こんなに長い間、継続している地域の運動会は全国でも類を見ません。いろんな意味で、伝統ある地域、安心して住める町づくりを継続しています。

住友ゴムさんは地域の活動に積極的に参加してもらっていますが、もっと深く地域に入り込んでいただきたい。

都城市役所商工観光部 中島氏からの期待・意見

● 都城市は、南海トラフ巨大地震などが起ったときの後方支援拠点都市となることを計画しています。被害の大きな地域に迅速かつ効果的な支援ができるように、救援ヘリが離着陸できる拠点を整備しています。災害対策は行政だけでできるものではなく、企業との関わりも重要になってきます。住友ゴムさんにもご協力をお願いします。

● 都城には(一社)霧島工業クラブという異業種交流グループがあります。地域の企業が集まって、先進的な技術や製品を生み出していくことを目的にしており、住友ゴムさんが参加してくれれば、活動にも弾みがつくと思います。

ダイアログを終えて 住友ゴム工業(株)宮崎工場から

宮崎工場の近隣地域は、70回を数える運動会が象徴するように目的を持ち組織立て活動に取り組み、地域を活性化させていこうとしておられます。そこに所在する企業として、他の企業の模範となるような工場運営をしていきたいと考えています。

宮崎工場は2016年で操業40周年を迎えますが、地域の皆様からのご意見は、今後の工場運営を考える上での糧であると考えています。これからも、良いご意見、悪いご意見を含めて、地域の皆様の忌憚ないご意見・ご期待をお聞きしながら、またご指導をいただきながら、地域に根ざした工場を目指していきます。

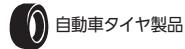
サイトレポート

住友ゴムの国内6工場、海外11工場、国内の関連会社4社のCSR活動の一部をご紹介。

国内・海外の工場、国内関連会社とともに、地域社会への貢献活動を推進しています。

取り組み概要や活動事例は、Webサイトで紹介します。(2015年7月末公開予定)
<http://www.srigroup.co.jp/csr/sitereport/index.html>

※掲載拠点は環境マネジメントシステムISO14001のグローバル統合認証を取得しており、
 認証番号「YKA4004047」で環境管理体制を一元化しております。



■ 国内工場 ■ 国内関連会社 ■ 海外工場

白河工場	福島県 白河市	0
従業員数	1,705名	
操業開始年	1974年	
主要製造品目	自動車タイヤ 完全ゼロエミッション達成	2004年



手作りのハチ誘引器を白河市近隣の幼稚園に設置し、子どもたちを危険から守るお手伝いをしました。

名古屋工場	愛知県 豊田市	0
従業員数	1,328名	
操業開始年	1961年	
主要製造品目	自動車タイヤ 完全ゼロエミッション達成	2004年



豊田市交通安全協会が主催する「3千人交通安全立哨」に、当工場の交通安全委員が参加しました。

宮崎工場	宮崎県 都城市	0
従業員数	1,438名	
操業開始年	1976年	
主要製造品目	自動車タイヤ 完全ゼロエミッション達成	2004年



金御岳「四季の森」GENKIの森で第1回目の植樹会を行ない、育みの森(里山)づくりがスタートしました。

市島工場	兵庫県 丹波市	0
従業員数	193名	
操業開始年	1996年	
主要製造品目	ゴルフボール 完全ゼロエミッション達成	2005年



近隣のサービスエリアにて、工場敷地内で育てた苗木や、採集したカブトムシの幼虫を配布しました。

(株)ダンロップリトレッドサービス	兵庫県 小野市	0
従業員数	57名	
操業開始年	1972年	
業務内容	更生タイヤの製造・販売 完全ゼロエミッション達成	2010年



当社の従業員が、小野市自衛消防競技会に参加しました。

SRIエンジニアリング(株)	兵庫県 加古川市	0
従業員数	171名	操業開始年 2003年
業務内容	タイヤ生産用金型の製作、技術開発、技術検査支援 完全ゼロエミッション達成	2008年



毎年、6月と10月に事業所周辺の清掃を実施しています。

(株)ダンロップゴルフクラブ

宮崎県
都城市

従業員数	220名
操業開始年	1989年
主要製造品目	ゴルフクラブ 完全ゼロエミッション達成
	2006年



地球温暖化抑制のため、工場の事務所に大きなグリーンカーテンを作りました。

インドネシア工場

インドネシア
チカンベック市



従業員数	3,655名
操業開始年	1997年
主要製造品目	自動車タイヤ、ゴルフボール 完全ゼロエミッション達成
	2008年



デング熱発生予防のため、地域の蚊の駆除活動を実施しました。

中国・常熟工場

中国
江蘇省



従業員数	2,300名
操業開始年	2004年
主要製造品目	自動車タイヤ 完全ゼロエミッション達成
	2006年



常熟市内でエコバッグを配布し、地域の環境保護に対する意識向上を呼びかけました。

タイ工場

タイ
ラヨーン県



従業員数	6,204名
操業開始年	2006年
主要製造品目	自動車タイヤ、農機・産業車両用タイヤ 完全ゼロエミッション達成
	2009年



従業員が毎年、地域の献血活動に積極的に参加しています。

中国・湖南工場

中国
湖南省



従業員数	850名
操業開始年	2012年
主要製造品目	自動車タイヤ



近隣企業の皆さんへ、当工場で実施している安全体感教育を紹介しました。

南アフリカ工場

南アフリカ
クワズール・ナタール州



従業員数	1,121名
操業開始年	1973年
主要製造品目	自動車タイヤ



会社主催の自動車ラリーで訪れた各地で物資を寄贈するなどの奉仕活動を行いました。

タイ・天然ゴム加工工場

タイ
ウドンタニ県



従業員数	282名
操業開始年	2010年
主要製造品目	天然ゴム加工品 完全ゼロエミッション達成



環境保全活動の一環として、地域の小学校にゴミ箱を寄付しました。

中国・中山工場

中国
広東省



従業員数	530名
操業開始年	2001年
主要製造品目	OA機器用精密ゴム部品 完全ゼロエミッション達成



社員の自宅や実家にある古着や文房具を持ち寄って、貧困地域の学童や家族に寄付する活動を実施しました。

タイ・テニスボール工場

タイ
プラチンブリ県



従業員数	365名

<tbl_r cells="2" ix="1" maxcspan="1" maxrspan="1" usedcols

CSR推進とマテリアリティ特定の歩み

住友ゴムグループのCSR推進とマテリアリティ特定の取り組み経緯を整理して報告しています。
これまで積み重ねてきた活動や課題・成果を振り返り、今後のCSR活動推進に役立てていきます。

2008

2010

2012

2014

2015

2016

2008年度、「CSR活動基本方針」と「CSRガイドライン GENKI(5項目・13指標)」を策定しました

当グループは、CSR活動を活性化させ社会から信用される企業グループとなるため、2008年度にCSR活動基本理念と、「Green(緑化)」「Ecology(事業活動の環境負荷低減)」「Next(次世代型技術・製品の開発)」「Kindness(人にやさしい諸施策)」「Integrity(ステークホルダーへの誠実さ)」の5つの枠組みからなるCSRガイドライン(5項目・13指標)を策定しました。

ステークホルダーとの対話の推進

「有識者」とのダイアログを実施

CSR活動を前進させることを目的に、2009年から有識者とのダイアログを開始。

2013年まで毎年実施し、計6名の有識者の方々から貴重なご意見を頂戴しました。こうしたご意見を目標設定や取り組みの改善・向上に活かしてきました。

2011年度、「CSRガイドライン13指標」のうち特に重要な項目(マテリアリティ)を特定しました

2011年度、社会と自社グループの持続可能性をさらに高めていくため、CSRガイドラインの13指標について、ステークホルダーと自社への影響度を検討し、重要性の高い指標(マテリアリティ)を特定しました。

特定にあたっては、アンケートなどによる各ステークホルダーの声や実態調査の結果を考慮しました。

ステークホルダーとの対話の推進

各ステークホルダーの声や実態を調査

- 次のような調査を実施し、マテリアリティ分析に活用しました。
- サプライヤーCSRヒアリング調査
 - CSR報告書2010読者アンケート(従業員・取引先等)
 - 従業員アンケート調査 ● 2010年消費者総合調査
 - 個人株主アンケート調査 の5種

2014年度、事業環境の変化などを考慮して、CSRガイドライン13指標に、6指標を加えました

2014年、事業環境の変化などにともなうステークホルダーや社会への影響を考慮し、サプライヤーや従業員へのアンケート結果なども参考にしながら、重要なCSR取り組みとして新たに6指標を追加。

重要なCSR取り組みを19指標に設定し、CSR活動のPDCAを推進していきます。

ステークホルダーとの対話の推進

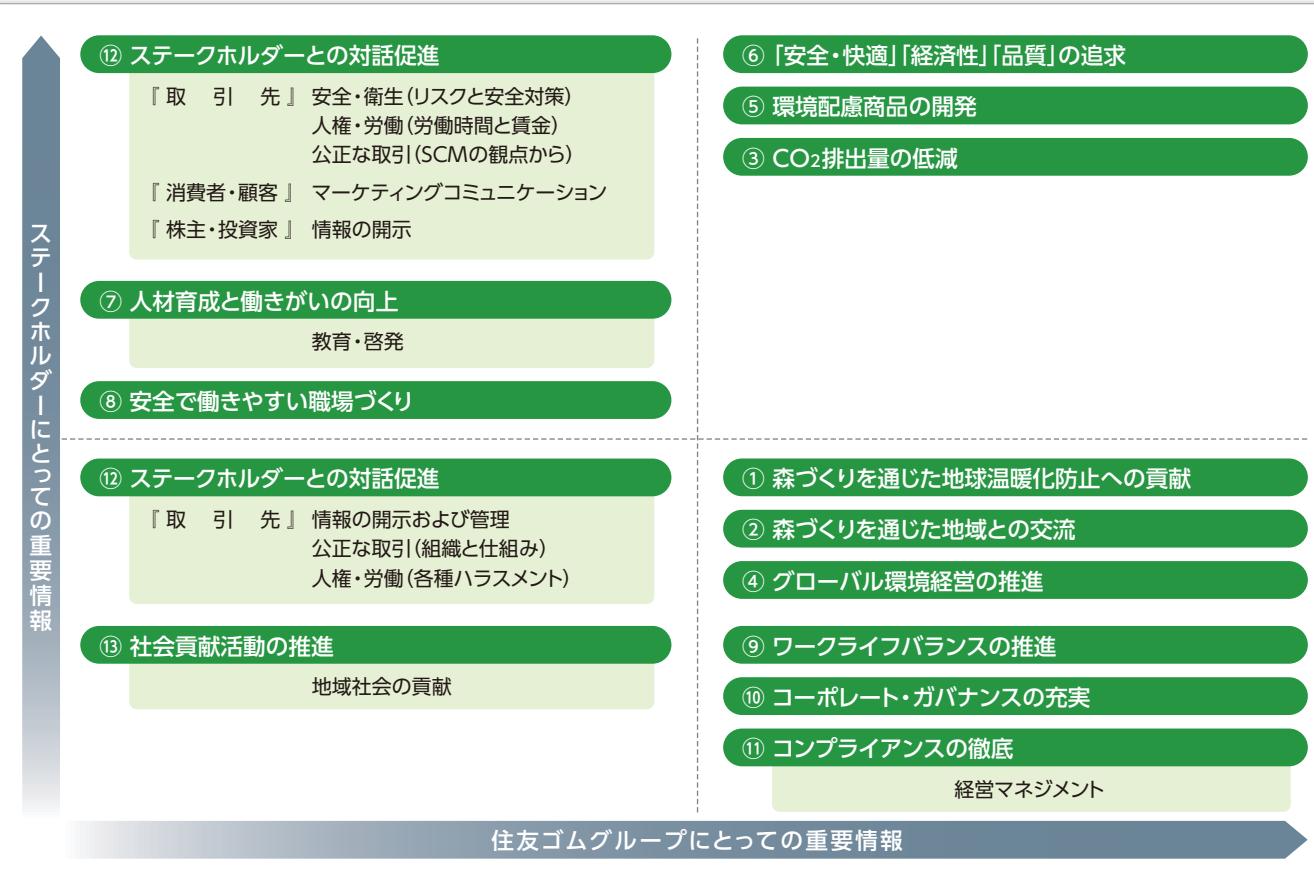
「地域」とのダイアログを実施

2014年からは、生産拠点のある地域との関係をより良くするため、地域住民やNPO、行政などとのダイアログを開始。第1回は、白河工場(福島県)で開催。

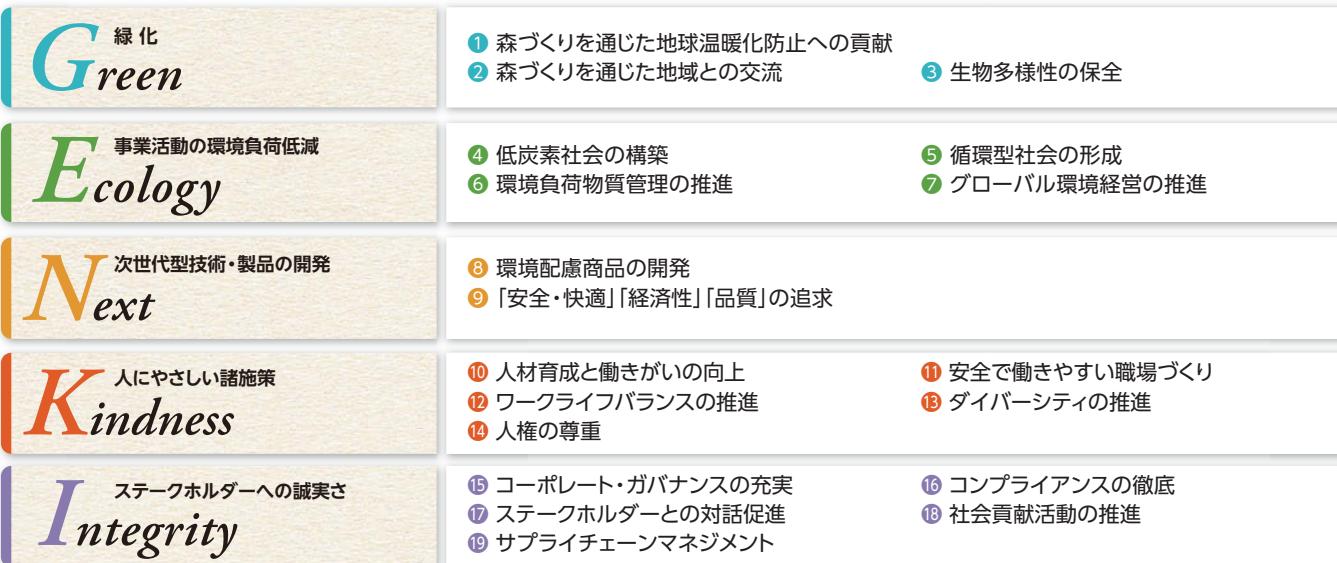
2015年には第2回を宮崎工場(宮崎県)で開催しました。



CSRガイドライン「GENKI」に含まれる13指標とマテリアリティ(2011年~)



CSRガイドライン「GENKI」の19指標(2014年~)

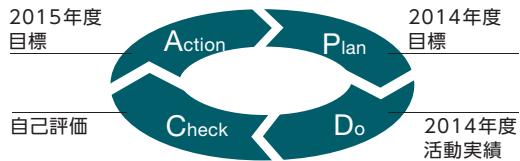


2014年度の目標と実績

「◎」マークの項目は、第三者検証の対象データです。「2014年度の活動と2015年度の目標」詳細は、Webサイトに掲載します。(2015年7月末公開予定)

CSRガイドライン

住友ゴムグループのCSRガイドライン「GENKI」に基づき、2014年度活動の進捗と成果を検証し、2015年度の目標を策定しています。ここでは、主要項目を抜粋し紹介しています。



2014年度の活動と2015年度の目標(主要項目抜粋)

	Plan 2014年度目標	Do 2014年度活動実績	Check 自己評価	Action 2015年度目標	
G 緑化 Green initiative	<ul style="list-style-type: none"> ① 森づくりを通じた地球温暖化防止への貢献 ② 森づくりを通じた地域との交流 ③ 生物多様性の保全 	<ul style="list-style-type: none"> ● 100万本の郷土の森づくりプロジェクト目標設定・推進 ● 緑化活動の継続 ● どんぐりプロジェクトの推進 毎年2万本以上を植樹 ● ビオトープ環境整備 ● 絶滅危惧種の保護・育成の継続 	<ul style="list-style-type: none"> ● 100万本の郷土の森づくり 2014年度:90,385本 累計:1,485,277本植樹 ● 国内のどんぐり植樹活動 2014年度:21,436本植樹 累計:139,602本植樹 ● 名古屋・宮崎工場のビオトープでのホタル育成 ● 加古川工場で育成のフジバカマを加古川河川敷に移植 	100%	<ul style="list-style-type: none"> ● 100万本の郷土の森づくりプロジェクト推進 下草刈のみから間伐へ森林整備レベルを上げる ● どんぐりプロジェクトの推進 苗提供も含めた地域との交流を広げる ● ビオトープ環境整備 ● 絶滅危惧種の保護・育成の継続
E 事業活動の環境負荷低減 Ecology Ecological process	<ul style="list-style-type: none"> ④ 低炭素社会の構築 ◎ ⑤ 循環型社会の形成 ⑥ 環境負荷物質管理の推進 ⑦ グローバル環境経営の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● (国内6工場) 原油換算エネルギー使用量原単位2000年度比9%以上削減 ● (国内6工場) ◎ 生産におけるCO₂排出量を1990年度比15%以上削減 ● (国内6工場) 有価物を除く廃棄物排出量原単位を2011年度比1%以上削減 ● (国内6工場) 排水量を2005年度比7%以上削減 ● (国内6工場) 有機溶剤総排出量を2000年度比81%以上削減 ● (国内6工場) (NO_x+SO_x+はいじん)量を2005年度比80%以上削減 ● ISO14001グローバル統合認証の維持 	<ul style="list-style-type: none"> 8.8%削減 11%削減 10%削減 4.9%削減 81%削減 83%削減 ● 維持・継続 	100%	<ul style="list-style-type: none"> ● 前年度比2.6%以上削減 ● 原単位で前年度比2.7%以上削減 ● 前年度比2.6%以上削減 ● 原単位で前年度比1.8%削減 ● 原単位で前年度比3.8%以上削減 ● 2005年度比80%以上削減 ● 維持・継続
N 次世代型 技術・製品の開発 Next Next-generation product development	<ul style="list-style-type: none"> ⑧ 環境配慮商品の開発 ⑨ 「安全・快適」「経済性」「品質」の追求 	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境配慮商品の拡販 ● 転がり抵抗低減タイヤ・低燃費タイヤの拡販 	<ul style="list-style-type: none"> ● 商品の開発ならびに販売 ● 低燃費タイヤ「エナセーブ RV504」の発売 	100%	<ul style="list-style-type: none"> ● 拡販 ● 拡販
K 人にやさしい諸施策 Kindness Kindness to employees	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ 人材育成と働きがいの向上 ⑪ 安全で働きやすい職場づくり ⑫ ワークライフバランスの推進 ⑬ ダイバーシティの推進 ⑭ 人権の尊重 	<ul style="list-style-type: none"> ● グローバル人材育成 ● リスクアセスメントなどの安全管理、メンタルヘルスなどの衛生管理を推進 ● 男性の育児休業利用促進 ● 育児短時間勤務利用促進 ● 個々の多様性を活かした働き方を支援 ● 人権に関する研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2008年にスタートした海外派遣要員研修の受講者数が累計375名に到達 ● 労働災害件数、および疾病休業日数は前年より増加 ● 男性育児休業利用者2名 ● 育児短時間勤務者47名 ● 女性従業員への育児と仕事の両立に関するヒアリング実施 ● 女性管理職数2014年度比6名増(計10名) ● 人権に関する研修の実施 	100%	<ul style="list-style-type: none"> ● グローバル人材育成を目的とした必要な知識・スキル習得の研修および語学力向上のための英語特別教育 ● 安全な人づくりと心と身体の健康づくりを推進 ● 男性の育児休業利用促進 ● 育児短時間勤務利用促進 ● 託児サポート制度の運用 ● 個々の多様性を活かした働き方を支援 ● 人権に関する研修の実施継続
I ステークホルダーへの誠実さ Integrity Integrity for stakeholders	<ul style="list-style-type: none"> ⑮ コーポレート・ガバナンスの充実 ⑯ コンプライアンスの徹底 ⑰ ステークホルダーとの対話促進 ⑱ 社会貢献活動の推進 ⑲ サプライチェーンマネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業統治体制の拡充 ● コンプライアンス研修の拡充 ● さまざまなステークホルダーとの対話促進 ● NPOとの協業推進(活動継続と拡大) ● サプライチェーンでのCSR推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 監査役5名のうち3名を社外監査役に選任 ● 取締役のうち2名を社外取締役に選任 ● アンチダンピング課税に関する講演会を実施 ● 海外を含むグループ会社でも各種説明会を実施 ● 宮崎工場で、地域自治会、NPO、行政などとのダイアログを実施 ● ものづくり教室、環境教室、情報交換会を実施 ● CSR調達に関し取引先へのアンケート実施 	100%	<ul style="list-style-type: none"> ● 内部統制システム強化の継続的な取り組み ● コーポレートガバナンス・コードへの対応 ● 企業理念および企業行動基準の徹底 ● さまざまなステークホルダーとの対話促進 ● NPOとの協業推進(活動継続と拡大) ● サプライチェーンでのCSR推進

※ 自己評価の計算方法: 基準年比(1-削減率)を用いて次の通り計算しています。

$$(1 - \frac{\text{目標基準年比} - \text{実績基準年比}}{\text{目標基準年比}}) \times 100\%$$

第三者検証報告書

本報告書およびWeb開示の環境報告データの信頼性を高めるために第三者機関による検証を受けました。

「○」のマーク(P24、P25、P45)は、検証の対象データです。

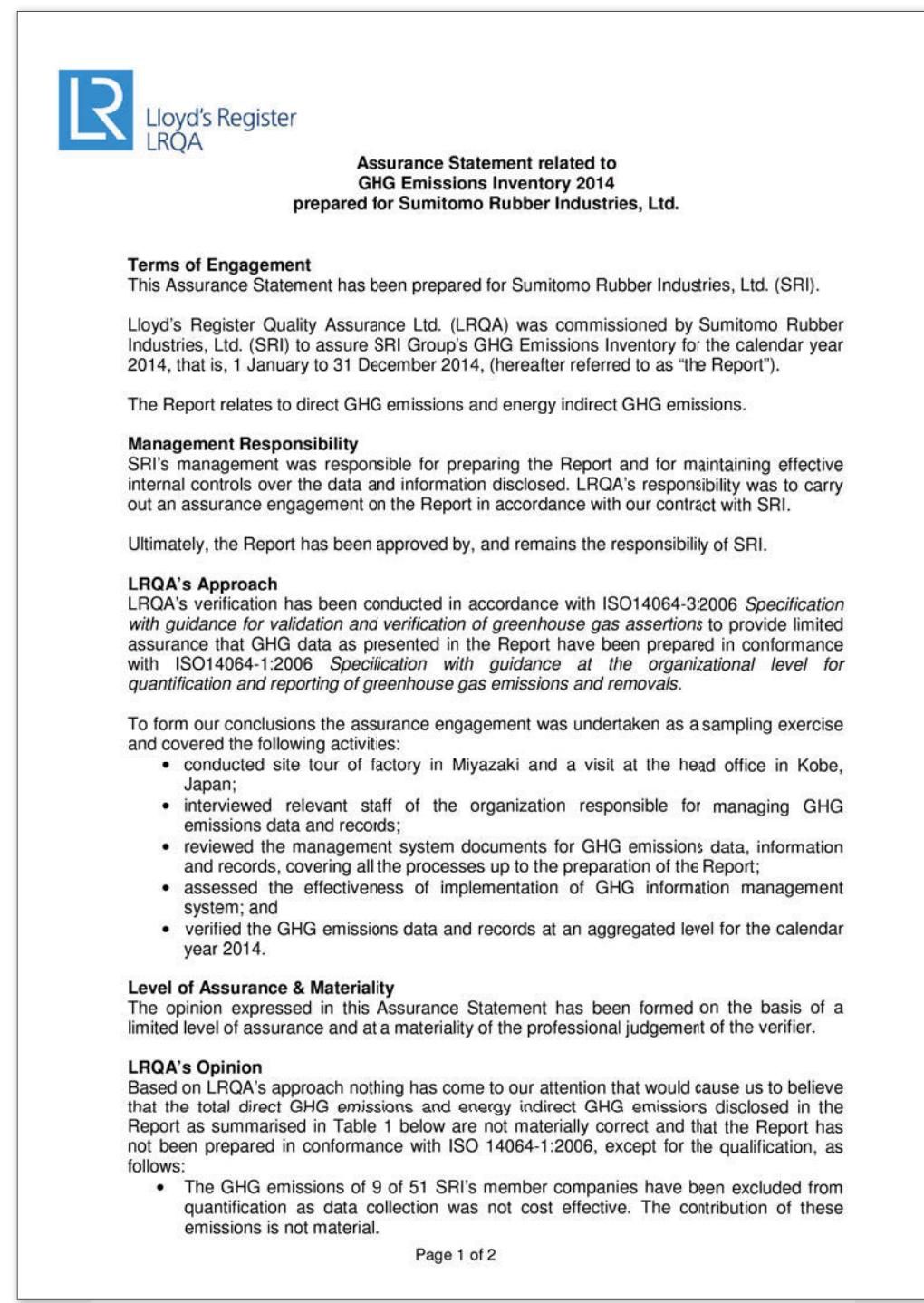
この検証の対象データと検証基準は次の通りです。

1. グローバルCO₂排出量

基準: ISO14064 -1

2 国内工場の水使用量 排水量 廃棄物排出量(有価物を除く)

基準：IPQA's Report Verification (ISOE3000 AA1000AS GRIを参考)



第三者意見



進化するCSR活動

住友ゴムの第三者意見書を執筆するようになって数年になりますが、年々進歩がみられます。価値創造とCSR活動を一体化して推進しようとする姿勢が、以前よりもはっきり示されるようになってきました。

池田社長のメッセージで、経済的価値と社会的価値の追求が明確に示されているだけでなく、理念とビジョンのページでも、経済的価値と社会的価値が併記されていることも大変評価できます。ただし、数値の目標のある経済的価値に比べて、社会的価値については定性的表現にとどまっていますが、ここに数値目標を掲げられるようになれば、素晴らしいと思います。報告書の中では、多くの数値情報が提供されていますので、全体を体系化されて継続的な活動をより一層進めていただきたいと思います。

マテリアリティの特定

今年度の報告書では「CSR推進とマテリアリティの特定の歩み」において、マテリアリティについて詳しく説明されていることも注目点です。マテリアリティはGRIの「サステナビリティ報告ガイドライン」や「国際統合報告フレームワーク」でも、最も重視されている概念です。住友ゴムがこれまでマテリアリティを重視して活動を行ってきたことと、今後もそれを進化させていく決意が読み取れます。

マテリアリティをCSR活動に根付かせるためには、計画画面だけでなく、フィードバック面が非常に重要です。今後は、CSR活動の評価のところに社外からの意見も含めたフィードバックループを構築されることが、将来的な発展の鍵になると思います。

重要なステークホルダーとのダイアログ

CSRは社会に開かれた窓であるべきですから、ステークホルダーとの関係は非常に重要です。その意味で、昨年の白河工場でのダイアログに引き続き、宮崎工場でのステークホルダーとのダイアログは高く評価できます。工場は企業にとっての価値を創造する現場であり、その周りの環境は、企業の価値創造を支え得ていると言っても過言ではないでしょう。地域への貢献と優秀な労働力の提供は密接に関連しています。

このような活動は今後もぜひ継続され、将来的には海外でも展開されることを期待しています。また、過去のダイアログの結果をどのように反映したのかのフィードバックもあれば、より充実した試みになると思います。

第三者意見を受けて

マテリアリティやステークホルダーダイアログなど、國部先生にはいろいろな角度からのご指摘を頂戴する一方で、いつも過分な評価をいたがいておりますことに、あらためてお礼申しあげます。

これまで継続してご意見をいただくなかで共通しているのは、KPI設定の重要性とそのフォローであり、今回、宮崎工場で実施したダイアログについても、ステークホルダーからのご意見に対し、どう対応したのか……、それをきちんと示すことができなければ、次回につながる評価には値しないと重く受け止めています。さらにご指摘いただきました通り、今後グローバルなCSRマネジメントも各分野で強く意識し、さまざまなステークホルダーニーズに応えることで活動の透明性を高めていきたいと思います。



CSR推進室長 北条 敏明

社外からの評価・認証の取得

G Green Green initiative	<ul style="list-style-type: none">● 2014年「海の日」国土交通省海事功労者等表彰を受賞● P.T. Sumi Rubber Indonesiaが「INDONESIA GREEN AWARD」を受賞
E Ecology Ecological process	<ul style="list-style-type: none">● 住友橡膠(常熟)有限公司とSumitomo Rubber do Brasil Ltda.がISO50001認証を取得● Sumitomo Rubber do Brasil Ltda.がISO14001認証を取得
N Next 次世代型 技術・製品の開発 Next-generation product development	<ul style="list-style-type: none">● 「エナセーブ100」が「第24回地球環境大賞」で日本経済団体連合会会長賞を受賞● 「エナセーブ100」が平成26年度省エネ大賞「資源エネルギー庁長官賞」を受賞● 「建材・設備メーカー-ranking 2014」戸建て住宅用制振部材部門で第1位を獲得● トムソン・ロイター「Top 100 グローバル・イノベーター 2014」に選出● タイヤ性能試験でISO/IEC17025認定を取得● 「2014年“超”モノづくり部品大賞」で「エナセーブ100」がものづくり生命文明機構 理事長賞を受賞● 「27th日刊自動車新聞用品大賞2014」で「エナセーブ100」が「準グランプリ」および「タイヤ・ホイール部門賞」を受賞
K Kindness Kindness to employees	<ul style="list-style-type: none">● 白河工場がOHSAS18001認証を取得● P.T. Sumi Rubber Indonesia、住友橡膠(湖南)有限公司、Sumirubber Thai Eastern Corporation Co., Ltd.がOHSAS18001認証を取得
I Integrity Integrity for stakeholders	<ul style="list-style-type: none">● 名古屋工場が「都市と農山村の交流に関するパートナーシップ協定」を締結● 第18回環境コミュニケーション大賞 審査委員長賞を受賞● 市島工場が兵庫県社会福祉事業団から感謝状を授与

編集方針

住友ゴムグループは「CSR活動基本理念」で定めた「CSRガイドライン」である「GENKI」の5項目(P.44参照)に基づいてCSR活動を推進しています。本報告書は、その2014年度の活動結果を中心にまとめたレポートです。

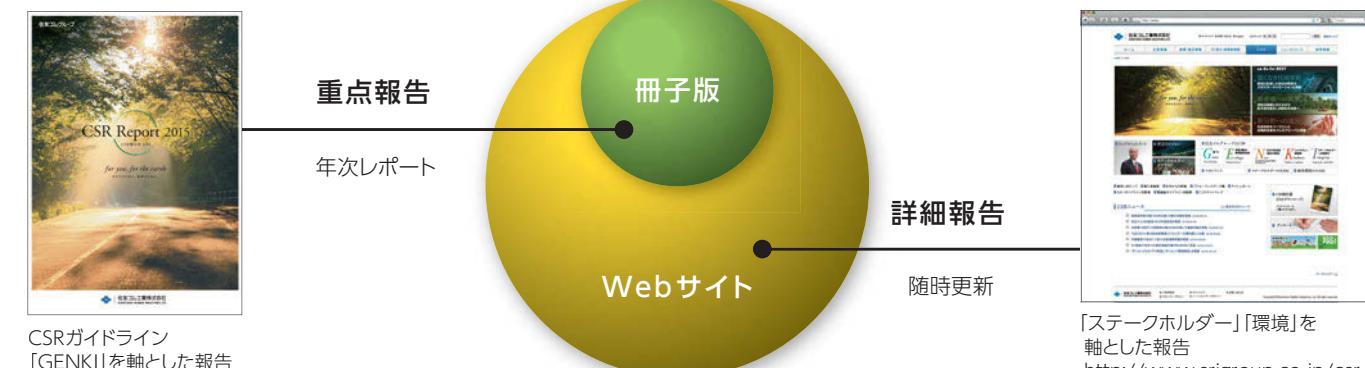
また、長期ビジョン「VISION 2020」のスローガン「Go for NEXT」と3つの成長エンジン「飽くなき技術革新」「新市場への挑戦」「新分野の創出」を当グループの重点課題と位置づけ、それぞれに関する取り組み「次世代型の環境配慮商品の開発」「新興市場でのCSR」「医療用ゴムの普及」を特集記事としました。

本報告書では取り上げなかった企業としての基本的で普遍的な取り組みやさらに詳しい活動情報は、当社Webサイト(2015年7月末公開予定)の「CSRの取り組み」において報告しています。

免責事項

本報告書には、住友ゴムグループの過去と現在の事実だけでなく、将来の計画や見通し、経営計画などに基づいた予測が含まれています。これらの将来予測は、記述した時点で入手できた情報に基づく仮定・判断であり、将来の結果は予測とは異なるものとなる可能性があります。

報告メディアの体系



報告のポイント・工夫

- 主な財務資本と非財務資本を示す指標として「主要財務指標」と「CSR関連指標」を掲載。事業活動を通じた価値創造の一部を報告しています。 P.3-4
- 長期ビジョンと住友事業精神、住友ゴムWAY、CSR活動基本理念などの関係性をわかりやすく図示するとともに、経済的価値の追求と社会的価値の追求という観点も加え、持続可能な社会の実現に向けた当グループのあり姿を紹介しています。 P.5-6
- 昨年に引き続き、地域社会との良好な関係づくりやステークホルダー参画による今後の地域貢献活動に役立てる目的で、宮崎工場で開催したステークホルダーダイアログの一部を報告しています。 P.37-40
- さらなるCSR活動促進のため、これまで推進してきた理念・方針の策定やマテリアリティ特定、外部有識者とのダイアログなどのCSR取り組みを紹介。今後のCSR推進の課題も報告しています。 P.43-44